

令和4年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価区分		評価区分		評価区分	
4. 教育課程・学習成果 ○医療保健学部看護学科 【計画10-1】㊦ 医療保健学部看護学科の新カリキュラムの運用と評価を実施する。 「計画達成のための方策」 1. 学年別目標の周知と評価の実施。 2. eポートフォリオの運用。 3. 新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備・改善・評価の実施。 「評価指標」 ・学年別目標の自己評価実施学生数：90%以上 ・eポートフォリオの実施学生数：80% ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年2回以上 ・カリキュラム評価に関する会議の開催：年1回以上（令和5年度） 【計画10-2】㊦ グローバル人材の育成のための取り組みを推進する。 「計画達成のための方策」 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の検討・実装・評価・改善の実施。 2. 外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。 3. レニック先生の英語クリニックの継続実施と評価の実施。 「評価指標」 ・外国人模擬患者を対象としたシミ	【年度計画10-1】 1. 学年別目標の周知と評価：4月履修ガイダンスで説明、2～3月学年別目標に沿った学生自己評価の実施。 2. eポートフォリオの運用開始。 3. 新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備。 「評価指標」 ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年75%以上 ・eポートフォリオの実施学生数：80%（1年生のみ） ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年2回以上 【年度計10-2】 1. 看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の検討。 2. 外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。 3. レニック先生の英語クリニックの継続実施と評価の実施。 「評価指標」 ・外国人模擬患者を対象としたシミ	Ⅲ	1. 学年目標（旧：学年別目標）は5月に教授会で承認された。そのため令和4年度入学生への説明は、7月に行った。卒業時到達目標（3・4年生）・学年目標（1・2年生）の自己評価は、4年生は2月13日に実施し、96名が回答した（回答率92.3%）。1～3年生は3月28日に説明し、4月10日までの回答期間を設定した。3月29日現在、1年生88.2%、2年生85.6%、3年生87%と前年度の53.6～59.6%から大幅に上昇した。 2. WebClassの修学カルテを利用し、eポートフォリオを実装し、3月末の卒業時到達目標・学年別目標自己評価から運用を開始する。 3. 夏季および春季看護学科FD研修会で、当学科におけるポートフォリオの説明を行った。関連事項として、全教員に対し、各科目のDP重みづけワークを行い、担当科目の本学科カリキュラムにおける位置づけを確認する機会とした。2月各科目のDP重みづけがほぼ確定し、その結果を受けて、履修系統図を修正、2023年度以降のディプロマ・サプリメントに適用を開始する。				
		Ⅲ	1. 看護学科が目指すグローバル人材とは/必要とされる資質/関連する科目について検討した。学科教員の意見聴取を経て資料を作成した。学生向けの紹介動画も作成し、当初ガイダンスにおける説明準備をすすめた。 2. 令和5年3月3日、6日、7日に実施、参加学生数15名（1～4年次）だった（アンケート回収率50%）。 3. レニック・ニコラス先生がN T T東日本関東病院から移籍されたことにより、レニック先生の時間の確保、謝礼の支払いなどが必要となったことから今後の活動継続については検討している。 【その他の活動実績】				

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
ユレーションプログラム10名以上、アンケート回収率90%以上 ・レニック先生の英語クリニックの参加者数10名以上（年）、アンケート回収率90%以上 ・グロプロ会議回数10回/年 ・活動実績広報件数3件以上 【計画10-3】🔗 学生サポートによるへこたれない心の育成を図る。 「計画達成のための方策」 1. 新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザー活動を実施する。 2. 新入生ガイダンス実施後に、Formsを用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。 3. この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。 「評価指標」 ・新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況 ・アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度100% ・学生相談室の認知度100% ・障がい学生支援制度の認知度100% ・新入生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度（満足している人）80%	ユレーションプログラム10名以上、アンケート回収率90%以上 ・レニック先生の英語クリニックの参加者数10名以上（年）、アンケート回収率90%以上 ・グロプロ会議回数10回/年 ・活動実績広報件数3件以上 【年度計10-3】 1. 新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザー活動を実施する。 2. 新入生ガイダンス実施後に、Formsを用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。 3. この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。 「評価指標」 ・新入生ガイダンス実施後アンケートの実施状況 ・アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度100% ・学生相談室の認知度100% ・障がい学生支援制度の認知度100% ・新入生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度（満足している人）80%	Ⅲ	・グロプロ会議 11回/年。 ・活動実績広報件数4件（内訳：リレー講演各回計3回、学科報告会1回）。 ・育成したい人材像を踏まえた「国際看護論（選択）」科目構成（担当者含む）を検討し、次年度開講準備。 ・リレー講演「世界の医療ケアを知ってみよう」の開催（第1回12月22日レニック・ニコラス先生、第2回1月12日MICHIKO先生、第3回2月10日佐々江龍一郎先生）。申し込み者総数数（オンデマンド視聴者含む）1回目202名、2回目202名、3回目227名（リアルタイムオンライン参加者第1回86名/第2回61名、第3回73名）。 1. 2. 看護学科学生委員会では、学生自身の援助希求育成に寄与するために、新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンスおよびアドバイザー活動を実施している。その満足度を評価し、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにするため、令和4年度の5月～6月に任意のwebアンケートを実施した（回答率約82%）。 ・質問項目の構成は「大学全体の各種相談窓口について」「看護学科のアドバイザー制度について」「“キャンパスライフフリーフレット”について」「学生生活サポート制度に対する受け止めついて」「4月5日に実施した新入生への“学生生活ガイダンス”について」である。 ・結果として、全体の理解度の平均は79%で、満足度はとても満足、まあ満足を含わせて約83%（n=95）と高い満足度であった。自由記述では「相談ができる場所がある」と知って気持ちが楽になりました、サポートが手厚くてありがたいと感じた、高校生の時とは違い、自分から積極的に行動していく必要があると思いました」など前向きなコメントがみられた。 ・次年度のガイダンスは、現時点では従来通りの実施で問題はないと判断し計画することとした。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
【計画 10-4】㊦ 臨地実習指導者講習会を実施する。 「計画達成のための方策」 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2. 研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9 月に 2 日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3. 対象者の看護師に 10 月～12 月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1 月に各参加者の実習指導体験のリフレクション演習を行う。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。 「評価指標」 ・実習病院・施設の参加者 看護師 30 名、教員 15 名 【計画 10-5】㊦ 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施する。 「計画達成のための方策」 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマ	【年度計画 10-4】 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2. 研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9 月に 2 日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3. 対象者の看護師に 10 月～12 月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1 月に各参加者の実習指導体験のリフレクション演習を行う。 4. 令和 3 年度から 5 年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。 「評価指標」 ・実習病院・施設の参加者 看護師 30 名、教員 15 名 【年度計画 10-5】 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマ	Ⅲ	1. 看護学科実習委員会の担当者 3 名を中心に企画・運営・評価を実施できた。 2. 9 月に 2 日間の基本知識の講義・演習については、学内教員 5 名の協力を得て実施できた。 3. 10 月から 12 月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まえて実習指導者として各自 2 事例を提出し、1 月にグループリフレクションを実施することができた。 4. 感染対策により、リモート研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養施設の指導者は参加しやすい環境があった。一方、全体の参加人数が予定より少なく留まったことに関しては、本学のプログラム以外の外部研修を利用した方や感染状況の中で指導者役割の方の勤務調整などが影響したと推測できた。予定人数には満たなかったものの、研修アンケートでは、理解できた、役立ったという回答であり、他の人にも勧めたいということで参加者の満足度は高かったため、次年度は評価指標を人数ではなく研修評価内容も加味し、同内容で引き続き開催をする予定とした。 「評価指標」 ・病院・クリニック：5 施設 7 名 ・特養・老健：2 施設 2 名 ・学内教員 1 名（講師や運営を除く） 計 10 名			
		Ⅲ	1. ホームカミングデイを令和 5 年 1 月 13 日に開催し、卒業生 5 名、在学生等 5 名、教職員 27 名が参加した。 2. 今年度は令和 5 年 4 月より本学大学院にプライマリケア看護学領域が開設されること併せ「高度な看護実践能力」をテーマに企画した。また本学の卒業生支援に関する訴求力向上を目的として今年度はマギーズ東京の秋山正子氏を講師に迎え講演会と交流会を実施した。開催に係る費用は看護学科特別研究費を申請し運営に充てた。参加した卒業生からは「著名な講師の講演がありがたかった」、「看護職が何ができる			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
は目的に合わせて年度毎に検討する。 「評価指標」 ・ホームカミングデイの参加状況卒業生 30 名、教員 20 名、在校生 10 名 ○医療保健学部医療栄養学科 【計画 11-1】㊦ 専門性の高い心温かい医療人の育成の観点から、ボランティア活動を推進する。 「計画達成のための方策」 1. 主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供や食育媒体の提供を行う。 「評価指標」 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供を実施：3 回/年 ※COVID-19 感染拡大状況により、「せたがやハウス」での食事支援活動が可能になれば、食事提供を実施：1～2 回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ食育媒	は目的に合わせて年度毎に検討する。 「評価指標」 ・ホームカミングデイの参加状況卒業生 30 名、教員 20 名、在校生 10 名 【年度計画 11-1】 1. 「せたがやハウス」に滞在する入院中の子どもに付き添う親への食事支援として、焼き菓子及び食育媒体の作成を行うため、医療栄養学科 1 年生から 4 年生の学生にメール等でアナウンスし、ボランティアを募る。 2. 1 グループ 4 名程度のチームで、焼き菓子の考案、作成（本学）及び提供を行う。 また、食育カードを作成する。 「評価指標」 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供を実施：3 回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ食育媒体の提供：3 回/年 ・ボランティア学生：4 名程度×3 回＝12 名	Ⅳ 				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
体の提供：3 回/年 ・ボランティア学生：4 名程度×3 回 ＝12 名 【計画 11-2】㊦ 病院内で横断的な活動を求められる管理栄養士として、必要な知識及びスキルを日々更新していくことが重要であることから、「医療現場で活用するための栄養管理」を学習するための研修会を開催する。 「計画達成のための方策」 本学教員及び関連施設の医療従事者が講師となり、栄養補給法、疾患別の栄養管理の実際、在宅栄養管理について、講義及び演習を開催する。（栄養管理ビジュアルガイドを基準とする） 「評価指標」 研修会の実施回数：年 3 回以上かつ年間の参加者数を卒業生・一般で 100 名以上 【計画 11-3】㊦ 卒業時に管理栄養士国家試験合格が叶わなかった卒業生に対し卒業後に管理栄養士免許を取得できるように支援する。 「計画達成のための方策」 1. 卒業生向け管理栄養士国家試験対策講座を在校生の特別講義と同時開催する。	【年度計画 11-2】 疾患別の治療薬や症例検討をテーマとする研修会を開催することとして、卒業生や卒業生の職場の管理栄養士に向けて参加を募集する。また、企業の協力を依頼する。講師として管理栄養士以外の他職種にも講師依頼する。 「評価指標」 研修会の実施回数：年 3 回以上かつ年間の参加者数を卒業生・一般で 100 名以上 【年度計画 11-3】 在校生の特別講座と同時に開催することとし、動画配信の準備・試行、メール配信による情報提供と声掛けを継続する。	I	・東京医療保健大学医療栄養学科令和 4 年度年度卒後教育を対面にて開催し、16 名の卒業生が参加した（令和 5 年 3 月 18 日）。 ・今年度は今後の実施方法の見直しを図るための調査に重点を置いたため、年度計画を達成できていない。 ・卒業生のニーズ把握を目的に、9 月に卒後教育に関する WEB アンケートを医療栄養学科卒業生に実施し、148 名から回答を得た。その結果、医療分野に限らず幅広い分野の情報提供を求めていること、卒業生同士の情報交換の場が必要であることが明らかとなった。 ・そこで、次年度以降は病院の管理栄養士だけを対象とするのではなく、対象を広げて「卒後教育の拡充」を計画として掲げ、講義内容および運営方法を改善する。				
		IV	1. 卒業生向けの対策講座を開催したが、参加者はいなかった。 2. ガイドライン改訂などの情報提供を希望した卒業生にメールで情報提供を継続した。また、一部の科目について対策講座の動画配信を始め、卒業生に動画配信の案内メールを配信したが、視聴希望者はほぼいなかった。 ・上記の通り、講座の希望者がほぼいなかったため、本計画は一旦中断する。一方、				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	
2. 卒業後にガイドラインの改訂などがあった場合は、卒業生対象に講座を開講する。この場合、日常業務と並行しての講座は日程調整で困難があるため、講座は動画配信で開講する。 「評価指標」 ・参加者の合格率 50%以上 【計画 11-4】㊦ 既卒であっても本学で栄養教諭一種免許を取得可能とし、学校栄養職員から栄養教諭への任用替えを目指す卒業生への支援策を検討する。 「計画達成のための方策」 本学科栄養教諭委員が担当し、科目等履修にて栄養教諭一種に必要な科目（栄養教育実習を含む）を修得できる時間割・組織を構築することが将来的に可能か調査を行う。 1. 他大学の取組状況から本学で教職科目履修可能な状況を見出し、今後の生涯学習支援がどこまで実施可能か調査研究する。 2. 時間割作成について、重点として取り組む。 3. 本校勤務者並びに非常勤講師招聘が可能か調査研究する。 「評価指標」 ・調査研究の実施状況等 【計画 11-5】㊦ 古代食の復元研究について、歴史民俗博物館との共同研究を引き続き実施し、研究成果を学術雑誌やシンポジウムの開催を通じ、成果発表を行	「評価指標」 ・参加者の合格率 50%以上 【年度計画 11-4】 履修規定の作成並びに履修科目の設定を行う。 「評価指標」 ・調査研究の実施状況	Ⅲ	次年度から対象を広げる予定の計画 11-2「卒後教育の拡充」の中で、本活動も含め卒業生に対し何に注力すべきかについて、再検討する。 ・本大学における科目等履修に対する規定に従い、医療栄養学科において、卒業生の教職科目履修の支援がどこまで実施可能か調査した。組織については、学科内の教職課程委員会が対応するだけでなく、全学的な組織である教職課程委員会が対応することも必須であると判明した。また、時間割内の受講は可能であると判明した。 ・一方、本学卒業生の希望者がほぼいなかったことから、本計画を単独で進めることは一旦中断することにした。その上で、今後は、次年度から対象を広げる予定の計画 11-2「卒後教育の拡充」の中で、本計画も含め、何に注力すべきか、改めて検討していく。			

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
う。 「計画達成のための方策」 歴史民俗博物館との共同研究(令和5年度)と科学研究費助成金基盤研究A「東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病」(令和6年度まで)の研究を通して、古代食研究の成果を今後学術雑誌やシンポジウムなどで報告する。 「評価指標」 ・共同研究等の取組状況 ○医療保健学部医療情報学科 【計画12-1】㊦ Society5.0に基づくヘルスケア情報人材像を確立し、高等学校、実習先、就職先・進学先など社会におけるステークホルダーからの信頼を勝ち取る。 「計画達成のための方策」 Society5.0におけるヘルスケア人材像やその背景の書籍化及びカリキュラムの見直し・実装等を推進する。 「評価指標」 ・入学定員に占める学生の割合100% ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価75%超 ・就職先における肯定的な上司評価75%超 【計画12-2】㊦ 卒業生への生涯学習支援として、卒業後の資格試験取得に向けた学習サポートを実施する。	【年度計画11-5】 科研費基盤Aの国内での古代食研究調査の実施。 ①土器のコゲに関する分析 ②モデル土器での実験 ③国内調査 「評価指標」 ・共同研究等の取組状況 【年度計画12-1】 1. Society5.0におけるヘルスケア人材像やその背景の書籍化。 2. カリキュラムの見直し・実装。 「評価指標」 ・入学定員に占める学生の割合100% ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価75%超 ・就職先における肯定的な上司評価75%超	Ⅲ	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から海外調査は出来なかったが、国内調査に変更して古代の食品の再現実験を行った。国立歴史民俗博物館に加え新たに独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所とも共同研究を行い、西大寺食堂院跡出土の遺物について土器の化学分析も加えて共同研究を行った。それに関して令和5年3月に「西大寺食堂院シンポジウム」を開催して、全国に成果報告を公表した。 令和5年3月に吉川弘文館からその成果報告書として、『古代寺院の食事を再現する』を刊行した。				
		Ⅲ	1. 学科教員および有識者に執筆を依頼し、原稿の収集は9割程度終了した。校正作業を進めており、令和5年度前期中に出版予定である。 2. カリキュラムの見直しを行い、学生の多様性に対応できるように選択科目を多く配置する。令和5年度年度入学生より、新カリキュラムを実施する。 ・令和5年度の入学定員に占める学生の割合は60%で、目標不達となった。学生募集部主体から、学科教員、世田谷事務部が一体となって、募集活動に取り組む体制に再構築を行っている。 ・病院実習における肯定的な指導者評価は100%であり、今後もこれを継続したい。就職先における上司評価は、新型コロナウイルス感染症による面会制限もあり、令和4年度は調査が行えていない。令和5年度中に実施できるよう検討したい。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
「計画達成のための方策」 卒業生向けの医療情報技師等の資格試験講座を開講する。 「評価指標」 ・卒業後 3 年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者 15 名以上	【年度計画 12-2】 就職先企業向け資格試験対策講座のより効果的な実施方法を検討する。 「評価指標」 ・卒業後 3 年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者 15 名以上	Ⅱ	・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、12 名の若手社員（本学以外の卒業者も含む）は受験し、6 名が合格または科目合格した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり対象拡大できていないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等の見直しを行っていきたい。			
		Ⅱ	・国際会議抄録(Proceedings)の掲載実績はあったものの、英語論文(Paper)の掲載実績はみられなかった。なお、医学中央雑誌における令和 4 年度の一人あたり記事数は 0.81 本/人であり、大学全体の 0.77 本/人よりは若干高いものの、十分とはいえないので改善を図っていく。			
		Ⅳ	1. 全領域でアクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）に取り組み、その達成状況はほぼ 100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料（全 4 ページ）を作成し、全領域で共有した。以上 2 点から、今年度の取り組みは達成率			
【計画 12-3】㊦ 紀要・学会誌への投稿を推進する。 「計画達成のための方策」 紀要・学会誌への投稿がスムーズにできるための問題点を抽出し、今後のアクションとスケジュールを決定する。 「評価指標」 ・学科全体として、英語論文を 3 本/年以上公表	【年度計画 12-3】 英語論文を 1 本以上投稿する。 「評価指標」 ・英語論文の投稿状況					
○東が丘看護学部 【計画 13-1】㊦ 全領域で「自ら考え判断し行動できる自律した看護師」の育成を目指し、学生が主体性を発揮できる学習活動（アクティブラーニング）を取り入れた授業（講義・演習）を実施（導入・継続）する。 また、“tomorrow's Nurse” が目指す看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向けて、毎年 20% ずつの演習科目の内容・方法を検討し、令和 8 年度には全ての演習科目の見直しを行う。 「計画達成のための方策」 1. 各領域で新たにに取り組むテーマを 1 つ以上決定し、それに対する行動計画および実施・評価を報告する。令和	【年度計画 13-1】 1. 各領域の特性や各科目の学習目標に合わせ、アクティブラーニングを取り入れた効果的な授業計画・展開す					

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
8 年度までには全領域、全科目において検討する。 2. 領域間で情報を共有し、看護過程展開の事例や看護技術項目等の効果的かつ効率的な配置に関する検討を毎年 1 回ずつ行い、令和 8 年度の完了を目指す。 「評価指標」 ・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況 【計画 13-2】㊦ ボランティア活動やボランティアサークルが定着し、4 年間を通じて学生一人が最低 1 回はボランティア活動に参加する。 「計画達成のための方策」 1. 学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。 2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。 4. ボランティア活動・ボランティアサークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 「評価指標」 ・各種ボランティア活動の参加状況	る。また、各領域で実施しているアクティブラーニングに関する情報を共有する。 2. 看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向け、各領域で年度内で検討する演習科目および技術項目を決定し、演習内容・方法を見直す。また、各領域での検討内容をカリキュラム委員会で共有し、全体での調整を図る。 「評価指標」 ・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況 【年度計画 13-2】 1. 学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。 2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。 4. ボランティア活動・ボランティアサークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 「評価指標」 ・各種ボランティア活動の参加状況	Ⅳ	100%とした。 2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直しに取り組み、その達成状況はほぼ 100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料（全 4 ページ）を作成し、全領域で共有した。今年度は看護過程の展開事例について情報交換を行った。以上 2 点から、今年度の取り組みは達成率 100%とした。			
		Ⅳ	1. 2. 3. 4. コロナ禍の影響を引き続き受けており、登校制限や学生サークルの活動の自粛がみられた。また、コンタクトグループの活動も ICT によるミーティングのため、参加率も低下していた。 しかし、今年度より、目黒区との地域連携を推進するため 10 月 9 日（日）に開催された「第 46 回目黒区民まつり」に学生ボランティアを 10 名派遣した。 また、東京医療センター主催の災害訓練に 80 名のボランティア学生を派遣し、さらに目黒区消防団に 135 名登録しており、約 450 名の東が丘看護学部の学生が 4 年間で最低 1 回のボランティア活動に参加するという目標は達成できていると考えられる。今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増やしていきたい。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
○立川看護学部 【計画 14-1】㊦ 立川看護学部の「地域から信頼される看護師の育成」を基本とし、新カリキュラムの導入により、高い実践力と判断力を身に着けた看護師の育成を目指し、学生が主体的に学ぶことができるよう、講義・演習・実習を連動させ、これまでの学修成果を見直し、新たな教育手法の導入と改善および教育環境を整備する。 「計画達成のための方策」 1. 新カリキュラムの導入、及び各領域の特性や学習目標に合わせた教育手法を用い、学生が主体的に学ぶことができる教育環境を整え、効果的な授業を展開する。また、学習成果を可視化し、授業内容の改善を図る。 2. 看護技術項目（令和 4 年度から導入）の各演習・実習での修得度を評価し、卒後時点での看護技術の修得度を高める。 3. 副専攻「災害看護学コース」の教育を 1 年次から 4 年次まで系統的に実施、また、災害医療センターと連携し教育内容の充実を図る。さらに、地域と協働した避難訓練参加などの学習の機会（地域貢献・ボラティア）をもつ。 「評価指標」 ・新カリキュラムの導入状況 ・看護技術項目の習得状況 ・災害看護学コースの教育内容充実状況	【年度計画 14-1】 1. アクティブラーニングの導入・ICT の活用等について、全科目(104 科目)の 20～25%の見直しを行う。 2. 看護技術の修得度を高める 学年ごと、各領域で看護技術の達成度を評価し、情報を共有する(年度計画-5 に記載) 3. 災害看護学コースの教育内容の充実を図る。 「評価指標」 ・新カリキュラムの導入状況 ・看護技術項目の習得状況 ・災害看護学コースの教育内容充実状況	Ⅲ Ⅳ Ⅲ	1. 全科目についてアクティブラーニング（AL）の実施状況について調査を行い、実施率は 95%で、82%の科目で複数の AL が実施されていた。これらの結果を踏まえ、全教員参加による FD を開催、AL に関する情報共有とディスカッションを行った。AL に関しては、現状の把握と課題抽出ができたことから評価する。 2. 卒業時の看護技術の到達度については、実習検討委員会で分析を行っており、習得状況については情報を共有した。また、各領域で技術経験表にある技術項目を学習するかの確認を行った。講義・演習・実習により、項目ごとの到達度を評価する時期と、技術項目の表記が新カリから変更しており、到達度の評価が適切かどうかを確認することも今後の課題である。 3. 令和 2 年カリキュラムから、災害看護学に関し、必修科目 5 科目・8 単位となっている。災害看護学の科目担当者と、これまでの学修成果について検討を行った。学年進行に伴い、災害看護学Ⅰ～Ⅲで段階的に実践力を高めるものとなっているが、授業内容に重なりがあること、また、総合的な災害に対応する実践力の強化のための知識・技術および地域を見据えた防災・減災の学習が必要であるとの課題が明らかになった。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分
【計画 14-2】 ㊦ 学生の国家試験対策や就職支援を強化するとともに、卒業後の支援体制を構築する。 「計画達成のための方策」 1. 看護師国家試験合格 100%をめざす。 2. 8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3. 卒業後の支援体制を構築する。 「評価指標」 ・看護師国家試験合格状況 ・就職内定状況 ・卒業後の支援体制の構築状況 【計画 14-3】 ㊦ 立川看護学部 of 学生支援を充実させる。 「計画達成のための方策」 1. コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2. 新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3. 医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4. ボランティア活動参加の活性化を図る。	【年度計画 14-2】 1. 看護師国家試験合格 100%をめざす。 2. 8 月末までに就職内定 90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率 100%をめざす。 3. 卒業後の支援体制を構築する。 「評価指標」 ・看護師国家試験合格状況 ・就職内定状況 ・卒業後の支援体制の構築状況 【年度計画 14-3】 1. コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年 80%以上に維持する。 2. 新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を 80%以上にする。 3. 医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日 80 名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア 10 名以上を確保する。 4. ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・ボランティア活動に関する情報提供を年 3 回以上行う。	Ⅲ Ⅲ Ⅰ	1. 自己採点結果での判断ではあるが、必須問題はクリアしているが、一般状況設定問題の合格ラインが 64%以上なら 1 名不合格となる。受験勉強していない学生が親の勧めで受験をし、56%しか取れていない。 2. 100%就職の内定は頂いたが、卒業前に看護師以外の道を選ぶ学生が出てきたため評価を引き下げた。 3. 卒業生のメールアドレスを作成中であるがまだ、3 割程度である。更に、就職先も変更している状況であり。連絡先の確保ができていないが、卒業生に演習指導の協力が得られ、本人たちからも「今後も協力したい」という要望が聞かれた。 ・次年度は、連絡先が分かる学生からホームカミングを実施していけるように計画立案する。				
		Ⅲ Ⅱ Ⅳ Ⅳ	1. 前期は全学年 80%以上の参加率であったが、後期は 4 年生の参加率が低下していたため評価を引き下げた。 2. 3 年ぶりに新入生研修が行われたが、今回は学生支援センターが企画運営し、学部（学科）では企画運営に関与していない。 ・新入生研修の運営方法の変更に合わせ、計画内容の見直しが必要である。 3. 3 年ぶりに令和 4 年 11 月 5 日、6 日に医愛祭が行われ、学部（学科）企画を行った。両日とも 80 名以上の来場者があり、災害についての認識ができた等の意見が多かった。 4. 事務部を通して、立川市、立川警察署、日赤等のボランティア募集のアナウンスができた。 ・学生の各種ボランティアへの参加は増加しているが、個別には現状が把握しきれていないため、今後は学生のボランティア参加経験についての現状把握を行う。 ・老人保健施設でのボランティア募集に際し、学生のボランティアの参加応募があった。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議			
		評価 区分		評価 区分		評価 区分			
「評価指標」 ・コンタクト・グループミーティングの出席状況 ・新入生合宿研修の満足度 ・医愛祭での来場者、学生ボランティア数 ・ボランティア活動の参加状況 【計画 14-4】㊦ 実習施設と大学の連携を図り、より良い実習環境を整備した上で、看護師教育の技術項目に対する卒業時の到達度の達成に向けた指導の実施や、質の高い看護教育の実現に向けて大学・実習施設で共同研究を実施する。 「計画達成のための方策」 1. 実習施設と大学で実習に関する情報や課題を共有し、課題解決や教育効果向上に向けた検討の機会を持つ。 2. 臨床指導者と大学教員とさらなる連携を図り、看護学実習の目的・目標に沿った教育効果の高い実習を行えるよう実習環境や指導体制について検討する。 3. 看護技術経験表の集計、到達度が未達成 (60%未満) の項目について委員会で対策を検討する。また、学生の到達度評価について教員間で共有し、実習指導に活かす。	・4年間を通じて学生一人が最低1回はボランティア活動に参加する。 ・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力などを、年に1回以上行う。 「評価指標」 ・コンタクト・グループミーティングの出席状況 ・新入生合宿研修の満足度 ・医愛祭での来場者、学生ボランティア数 ・ボランティア活動の参加状況 【年度計画 14-4】 1. 看護学実習施設に対する説明会の実施。(1回/年) 2. 看護学実習連携会議の実施。(1回/年) 3. 技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース 4 年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度 60%以上の項目が 90%以上。 ・到達度未達成 (60%未満) 項目の共有及び対策の検討。(1回/年) 4. 大学・実習施設と実習指導に関連す	Ⅳ	1. 6 月 23 日 (木) に各実習施設と立川キャンパスで対面・オンラインのハイブリット形式にて開催した。全体会として 2021 年度の実習実施報告、臨地実習実施上の工夫や課題について説明し、20 施設 (来校 5 施設) から 48 名の実習担当者が出席した。	Ⅳ	2. 12 月 12 日 (月) に主たる実習施設と連携会議をハイブリッド形式で実施した。教員と実習施設の実習担当者と実習指導に関するディスカッションを行い、交流も図ることができた。	Ⅳ	3. 4 年次生に調査を実施した。到達度 60%未満の項目は、178 項目中 8 項目 (4. 5%)。感染対策上、留意が必要な技術項目 (食事、排泄等) の到達は前年度と同様に到達度が低かった。到達度の低い項目について各領域で到達に向けて検討することになった。	Ⅳ	4. 第 42 回日本看護科学学会学術集会にて「看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方」について実習施設と共同で交流集会を開催した。シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究について成果

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
4. 大学・実習施設で看護教育に関する共同研究を実施し、学術集会で成果発表を行う。 「評価指標」 ・看護学実習施設に対する説明会の実施状況 ・看護学実習連携会議の実施状況 ・技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討状況 ・大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究状況 【計画 14-5】 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化を図ることにより、立川市民の安全・安心を護るとともに学生団員自らの災害医療に対する知識と技能、意欲を育成する。 「計画達成のための方策」 1. 新入生オリエンテーション等の機会を利用して、大学の社会貢献活動の重要性を丁寧かつ適切に伝え、学生が主体性を持って入団することを第一とする。また、活動の様子を広くPRし、社会的に認知されていることを入団の意識付け材料とする。 2. 訓練・行事への出席率向上について、消防団員は『公務員』であるという自覚と責任感を入念するとともに、地域の担い手として地域住民と接することを説明して出席に対するモチ	る共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。（1 回以上/年） ・学術集会での成果発表。（1 回以上/年） 5. 学内実習のためのシミュレーション教材作りにむけた検討。 「評価指標」 ・看護学実習施設に対する説明会の実施状況 ・看護学実習連携会議の実施状況 ・技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討状況 ・大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究状況 【年度計画 14-5】 立川市消防団機能別分団（立川市学生消防団）活動の活性化。 1. 立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の 30%以上加入 2. 立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍:約 30%以上、ポストコロナ:約 50%以上 3. 上級救命講習を受講し、上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の育成。	I 				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分	評価 区分
バージョンアップに繋げる。また、各種訓練等の日程を予め立川市と調整し、学業に支障のないスケジュールを設定する。 3. 上級救命講習の受講について、上級救命講習の概要及び学生消防団にとっての必要性和有効性を説明する。 「評価指標」 ・立川市学生消防団に所属する学生数 ・立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況 ・上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況 【計画 14-6】㊦ 立川看護学部が目指す看護師像を情報発信するとともに、立川看護学部の人的リソースによる魅力あるオープンキャンパス、個別見学会等を企画・運営し、参加高校生の満足度を向上させる。 「計画達成のための方策」 1. 学生募集部と協働し、広報企画参加者の満足度とニーズに関する量的、質的データを収集できるアンケートを作成し、実施する。 2. 広報企画参加者アンケートの結果を検討して次のオープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、個別見学会、入試説明会、大学案内パンフレットなどの内容を検討する。 3. 在校生、教員、事務部職員などの人	「評価指標」 ・立川市学生消防団に所属する学生数 ・立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況 ・上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況 【年度計画 14-6】 1. 来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。3 回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度 70%以上 2. 来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3 回以上 ・個別見学会の参加者。満足度 70%以上	IV	IV	IV			
			1. オープン・ミニオープンキャンパスを合わせて 3 回開催した。そのうち 2 回が来校型と WEB 型のハイブリッド、1 回が来校型単独であった。来校型の参加者は年間計約 700 人であった。実施後参加者アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。 2. 個別見学会を来校型学科説明会に機能拡大して開催し、これを含めて学科説明会を計 5 回、入試説明会を 1 回開催した。これらへの参加者は年間約 300 人であった。参加者アンケートにでは回答者のほとんどが実施後アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。 3. 来校型学校推薦型入試説明会 1 回、WEB 型の高校教員対象大学説明会 1 回、全学部対象一般選抜入試説明会 1 回を開催した。参加者アンケートにでは回答者のほとんどが実施後アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
的リソースを活用した、参加者に近い感覚の学生メッセージ、学生と両親が関心を持てる学部紹介とキャンパスツアー、大学の授業内容に触れる学科企画プログラム、模擬講義、学生や教員によるフランクで楽しい各種プレゼンテーションなどを企画運営する。 「評価指標」 ・来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型・WEB 型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況 【計画 14-7】 学生・教職員の研究推進のため、図書室の利用促進を図る。 「計画達成のための方策」 図書室の申し込みの手続きを利用者の利便性に配慮して、簡便な方法に改善するとともに、文献利用を促すためのPRを定期的に発信する。また積極的な利用を推進するため、利用者の関心が高まるような新刊図書のPRを行うとともに、文献貸出を促すためのPRを定期的に発信する。 「評価指標」 ・ILL 申し込み人数の状況 ・立川図書館の貸し出し状況	3. 来校型・WEB 型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数 3 回以上 ・入試説明会参加者。満足度 70%以上 4. 出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1 回以上 ・出張講座参加者。満足度 70% 「評価指標」 ・来校型・WEB 型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型・WEB 型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況 【年度計画 14-7】 1. ILL 申し込み人数が令和3年度前期は 67 件（2～29 件/月）を 1.25 倍の 83 件を目指し、年間 166 件をめざす。 2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書及び雑誌）は令和 2 年度 3,523 冊であり、令和 4 年度もコロナ禍が継続していることから昨年度より 2％増の 3,594 冊（71 増）をめざす。 「評価指標」 ・ILL 申し込み人数の状況 ・立川図書館の貸し出し状況	Ⅳ	4. 出張講座を計 5 回行った。対象高校の希望で実施後アンケートは行わなかった。しかし、どの回も受講高校生の反応はとても良く、毎回の質問なども活発で、拍手なども盛んに受けた。これらのことから参加者満足度は 70%以上と判断した。				
		Ⅲ	1. 図書館月次報告では達成率が 76%であった。昨今は無料 PDF 公開も多くなっていることも要因である。さらに学生は、図書館から文献依頼ができることを知らない学生もいるため、文献依頼の方法を周知していくことが課題である。 2. 2 月末の時点で 19%増の 4195 冊を達成した。図書の貸し出し数は増加しており、講義や演習、その他国家試験対策等で図書館の利用を促していることが要因と考える。				
		Ⅳ					

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
○千葉看護学部 【計画 15-1】 未来に向けた主体性を涵養する教育を推進する。 「計画達成のための方策」 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 (1) 学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムとしてポートフォリオを導入し、効果的に運用されるよう仕組みを整備する。 「評価指標」 ・ポートフォリオシステムの整備状況、学年別ガイダンスの実施状況、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数・実施人数 (2) 早期から看護職としての意識を高めるため、1 年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。 「評価指標」 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数、看護学概論の授業評価、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数、参加人数、学生ボランティアの割合、情報提供の頻度	【年度計画 15-1】 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 (1)① L M S を用いた学修ポートフォリオの具体的な計画の検討と部分的な試行を開始する。 ②学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。 「評価指標」 ・ポートフォリオシステムに関する検討会（2 回）、学年別ガイダンスの実施状況 (2)①講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。 ②外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（特に低学年）を確認し、次年度に反映させる。 ③これまでのプログラムを継続し学生及び教員からの評価調査を実施する。 「評価指標」 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（1 回/各学年）、看護学概論の授業評価(肯定的評価が 7 割以上)、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回）・参加人数（5 人/	Ⅲ	1. (1) ・令和 5 年度からの LMS を用いた学修ポートフォリオの導入に向け、検討を行った。 また、学生に対して具体的な履修につながる学年別ガイダンスを定期的の実施した。 ポートフォリオの試行とガイダンスについては新年度に年 2 回程度行う計画とした。 ・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、1 年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。				
		Ⅲ	1. (2) ・教員からの講演会やイベントの案内は 9 回（学内 1、学外 8）であり、その他学会やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、学内の地域交流イベントに 20 名、大学で取りまとめた災害訓練は 32 名であったが、それ以外は任意参加としており数の把握はできていない。 ・学部の保健医療福祉関係者の授業は 1 年生 14 回、2 年生 8 回、3 年生 4 回、4 年生 1 回の計 27 回、加えて JCHO 船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が上記分を除き 67 回実施されており、十分に行われている。 ・令和 4 年度は、4 年間のカリキュラム全体を通して、4 年次生に DP に照らした評価調査と学習環境に関する評価調査を行ったが、1、2、3 年次生や教員への評価調査は行っていない。 ・次年度以降は、評価調査を実施する予定である				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
(3) 自ら学修に取り組む意義と方法との獲得をめざして、主体的な学修資源としての、図書館利用の促進、スタディスキルズに関する教材の提供、国家試験合格に向けて計画的・主体的に取り組むことが出来るような低学年時からのガイダンスや学修環境整備を行う。 「評価指標」 ・図書館入館数、貸出数、スタディスキルズに関する教材の視聴率、国家試験合格への取り組みの実施状況及び対策参加状況 2. 入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 入学前からの学修に対する主体性涵養をめざし、主として推薦試験による入学生を対象に、入学前準備プログラムを構築・実施する。 「評価指標」 ・入学前準備プロジェクトの参加者数、参加者への入学後アンケート調査	回)、学生ボランティアの割合（5人/回)、情報提供の頻度（3回） (3)①遠隔利用も含めた図書館リソースの活用が増加する。 ②図書館の利用促進にむけたオリエンテーション・企画・情報発信を行う。 ③授業及び入学前準備プログラム等を通じて、学生のスタディスキルズの獲得を支援する。 ④国家試験合格に向けて計画的・主体的に取り組むことが出来るよう、ガイダンスの実施、国家試験関係情報の発信、学修進度に応じた模擬試験や講座の開催、自主学習室の確保等を行う。 「評価指標」 ・令和 3 年度に比べ、図書館における入館数、貸出数、スタディスキルズに関する教材視聴率の増加状況 ・国家試験対策支援に学生の半数以上参加 2. 入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 ①前年度までの入学前準備プログラムを継続実施する。 ②入学後に該当者に対しアンケートを行い評価・改善をはかる。 ③入学前プログラム受講者の入学後の経過を追跡し、学生に対する主体性の獲得状況を評価する。 「評価指標」 ・令和 3 年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数 5%増加	Ⅲ	1. (3) ・入館延べ人数は前年比 122%、学部学生、大学院生の資料貸出延べ数は前年比 161%であった（令和 5 年 2 月末時点）。 ・学部 4 年生科目「看護研究」の希望領域を対象に、文献検索ガイダンスを実施した。 ・スタディスキルズ動画 4 本を作成・配信したが、アクセス数 100 にとどまった。また、1 年生科目担当者からは、スタディスキルズに関する質問への個別対応件数が多いという情報もあった。次年度は、学生が当該スキルを要すタイミングで、科目担当者より動画視聴を促して頂くよう、FD 報告会で教員に向けて動画内容を紹介した。 ・4 年生には国家試験関連ガイダンス等 6 回、模試 6 回、有料講座Ⅰ、Ⅱ、講座等を実施した、任意有料講座受講者 103 人/104 人（昨年 81 人/105 人）となった。自己学習室も 105 学生ホールを開放し、感染予防を行いながら、毎日複数の学生が利用していた。3, 2 年生は任意受験模試を実施したが、2 年生は 100%受験、3 年生は 1 人のぞき全員が受験した。				
		Ⅲ	2. 総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学予定者 63 人を対象とした入学前準備プログラムを継続実施した。「大学での学修を知ろう part2（対面）」は、53 人が参加した。協力学生からは入学予定者の質問に応えることができたという評価をもらった。 ・令和 4 年度入学生の入学後のアンケート結果では、対象者 60 人おなかで、不参加者 38 名。不参加理由は日時が合わなかった（28 名）であった。 令和 5 年度入学生対象の日程は、卒業式が 3 月を避け、祭日としたところ 53 名/63 名の参加となった。令和 5 年度入学予定者対象アンケートは令和 5 年度 4 月に行う予定である。 ・また、総合型選抜による入学予定者 17 人の内、地域交流イベントに 11 人が参加した。 ・入学前準備プログラム受講者への入学後の主体性獲得状況調査は行うことができなかった実施についての検討を継続する。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
結果、入学後の学業成績の分析結果状況	・プログラムに対する肯定的な評価の割合維持	Ⅲ	3. 学生を対象とした調査は実施しなかった。学部が提供した学生の課外活動の機会は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には 2 日半で述べ 29 名、地域交流イベントには 1 日で 64 名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約（実習による）が最も大きいと考えられた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした 2 つの新企画に学年を超えて学生が参加し、縦の交流を促進できた。参加学生による評価は、項目を含め次年度検討する。			
3. 学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外での学修機会の提供や学修活動を支援する。 医療・福祉の現場に関わる機会、健康関連イベントへの参加機会、ボランティア情報の周知及び活動発表やフィードバックを受ける機会の設定を行い、それぞれの学修機会と参加学生を増加させる。 「評価指標」 ・提供された学修機会の数、学生の参加人数、参加学生からのフィードバックの状況 						

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・ I C T活用科目数、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目数、各科目での成績評価結果、各科目での学生からのフィードバック、授業評価アンケート結果、教員間での情報共有機会の数 2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。 (1) 教職員の多様性への理解を向上させ、多様性に配慮した授業運営を行う。 (2) 教職員に対し、多様性に関する研修や情報共有の機会を定期的に設ける。 「評価指標」 ・ 多様性に関する研修・情報共有機会の数、教員へのフィードバック調査の結果、授業評価アンケート結果 【計画 15-3】 第 2 期中期目標・計画における教育の評価を行い、D P 及び社会ニーズの変化に応じたカリキュラムへの改定を行う。 「計画達成のための方策」 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院 D P に照らした点検評価を行い、C P、A P および D P の改定に向けた準備を行う。	「評価指標」 ・ 令和 3 年度比、I C T 活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数 2%増加 ・ 教員向けに関連する研修の開催状況 2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。 学生等の多様性をテーマとした教職員研修、カリキュラム評価・授業評価報告において学生の多様性への対応を視点とした評価を実施する。 「評価指標」 ・ 令和 3 年度から継続して多様性に関する研修・情報共有機会の提供状況 【年度計画 15-3】 1. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①カリキュラム改定ワーキングを設置し、現行カリキュラムの点検評価、改定に至るスケジュールと運営の方法（学部内外の領域・委員会等の連携含）を立案する。 ②これまでの学生授業評価、及び当該	Ⅳ	2. F D 委員会と共催で、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修」を 8 月 24 日に開催した。				
		Ⅲ	1. 4 月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、①D P とのシラバス照合、②全科目の授業評価アンケートの分析、③4 年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリキュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検（全教員参加）を行い、3 月に F D 報告会を開催した。また、プロジェクトメンバーで、現行カリキュラムにおいて改善が急がれる事項を全領域から聞き取り、教務委員会に①4 年次 4 月の時間割の過密の緩和、②統合実習の運営方法の改善（教務委員会着手中）、③精神医学の学修を組み入れる必要性などについて申し入れ、教務委員会により対応が始められてい				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容 【計画 15-4】 学生の主体性を涵養する教育を推進する。 「計画達成のための方策」 1. 教育ＤＸ化と並行して、学生が自己の学修活動を記録し振り返ることが可能な仕組みを準備し、年に 1 回以上、学生自身が学修活動について振り返り、その後の自らの目標について考えることができるよう指導する。 【評価指標】 ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1 回/年）	年度の終了時点での状況を資料とした点検評価会議を開催し、ＤＰの達成状況を評価するとともに、改善点を検討する。 ③卒業生とその就職先を対象とした調査を行い、卒業後のニーズからみたカリキュラムおよび教育方法の評価を行う。 ④ＦＤ研修会として、学士課程に求められるものやその変化、及び看護学教育ならびに、看護学の学士課程に求められるものやその変化について研修を行う。 「評価指標」 ・検討会・評価会議・研修会の開催各 1 回、卒業生を対象とした調査結果、教員を対象としたＦＤ研修による学びのレポート内容、成果物としての新カリキュラムに向けた改善内容の提言 【年度計画 15-4】 1. ＬＭＳを用いた学修ポートフォリオの具体的な計画の検討と部分的な試行を開始する。 【評価指標】 ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1 回/年）	Ⅲ	る。 ・令和 5 年度は、カリキュラム改定に向けたワーキングに発展させていくことが課題である。 1. LMS を用いた学修ポートフォリオの実施について記載フォームを検討し、令和 5 年度より試行することとして準備した。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
2. 千葉看護学部ビジョンに共鳴する受験生を確保する。学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムを作成し、本学部のビジョンを具現化するために入学前から継続した教育・学生支援を実施する。	2. a. 受験生対象の学部説明において本学部のビジョンをわかりやすく説明し、参加者の反応を把握し、必要に合わせ改善する。 b. これまでの入学前準備プログラムを継続しつつ、参加者アンケートにてよりニーズに合うプログラムにする。また、学校選抜型入試での入学予定者及び、その高校（校長）に入学前準備プログラムを周知する。 c. 学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。 d. 講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。	Ⅳ	2. 地域交流イベントで企画した 2 つの公開講座に関して、3 名の学生が運営を手伝った。船橋市が 5 月に募集する 1 年間のボランティア情報を年間通じて学生に掲示した。 ・オープンキャンパス・学部説明会計 7 回実施、参加人数計 518 組（R3 年度 410 組）、参加者のアンケート内容は「学部の特徴が良く理解できた」「是非入学したい」など肯定的なものがほとんどであった。 ・入学前準備プログラムのうち「大学での学修を知ろう part2」はオンラインから対面とし継続実施した。参加者アンケートは入学後に実施する計画を立案し準備している。また、学校進線型入試、および総合型選抜での入学予定者の高校（校長）すべての入学前準備プログラムの資料を送付し、その周知を図った。 ・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、1 年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。			
【評価指標】 ・オープンキャンパス実施回数（5 回/年）・参加人数（定員 8 割以上）・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の 7 割以上）・参加者アンケート内容（肯定的評価が 7 割以上）、学年別ガイダンスの実施状況（4 回/年）、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1 回/年）・実施人数（ほぼ全ての学生）、学生ボランティアの割合（5 人/回）、情報提供の頻度（3 回/年）	【評価指標】 ・オープンキャンパス実施回数（5 回/年）・参加人数（定員 8 割以上）・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の 7 割以上）・参加者アンケート内容（肯定的評価が 7 割以上）、学年別ガイダンスの実施状況（4 回/年）、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1 回/年）・実施人数（ほぼ全ての学生）、学生ボランティアの割合（5 人/回）、情報提供の頻度（3 回/年）					
3. 早期から看護職としての意識を高めるため、1 年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供する	3. a. 外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（特に低学年）を確認し、次年度に反映させる b. これまでのプログラムを継続し学生および教員からの評価調査を実施	Ⅲ	3. 学部の保健医療福祉関係者の授業は 1 年生 14 回、2 年生 8 回、3 年生 4 回、4 年生 1 回の計 27 回、加えて JCHO 船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が上記分を除き 67 回実施されており、十分に行われている。1 年次前期の看護学概論における見学演習を継続した。将来構想委員会のカリキュラム評価プロジェクトにより、4 年次学生へのアンケートならびに専任教員全員に対するヒヤリングを行った。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
など、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。 【評価指標】 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（5 回/年）、看護学概論の授業評価（総合評価が 4 以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回/年）、参加人数（5 人/回） 【計画 15-5】㊦ 生涯学習支援を継続する。 「計画達成のための方策」 1. 学部における生涯学習支援を継続し、これが大学ビジョンに向かうものとなっているかを評価し、改善するための I C T を活用した基盤を整備する。	するとともに、カリキュラム全体としての点検評価をカリキュラム改正活動とともに開始する。 c. 講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。 【評価指標】 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（5 回/年）、看護学概論の授業評価（総合評価が 4 以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1 回/年）、参加人数（5 人/回） 【年度計画 15-5】 1. 千葉看護学部における、卒業生と大学、大学と社会をつなぐありようをイメージ化し、千葉看護学部が生涯学習支援の場となるために必要な要素や仕組み（インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、等）と、そのために強化すべき機能（教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め）に関する検討会を開催する。（1 回） 実践経過と成果の蓄積と分析による評価・改善が可能となるよう、各種活動時にデータ収集したい共通項目を洗い出し、アンケート項目を作成し、I C T を活用した仕組みを検討する。	I	地域交流イベントにおいて、船橋中央病院の院長・栄養士・看護師による食事と嚥下に関する公開講座 1、および白梅学園大学子ども学部教授によるヤングケアラーに関する公開講座 2 を開催した。それぞれ 34 名、35 名の参加者があった。 教員からの学外の講演会やイベントの案内は 8 回であり、その他学会やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、大学で取りまとめた災害訓練は 32 名であったが、それ以外は任意参加としており数の把握はできていない。 1. 当該目標に関する検討会が開催しなかった。 評価のための仕組み作成にも着手することができなかったため、次年度の将来構想委員会の課題とする。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【評価指標】 ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作成状況と実施状況 2. 卒業生を継続してサポートできる仕組みを整備し、学びの機会を提供する。 【評価指標】 ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年 2 回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年 2 回）と参加人数（各回 50%） 3. 実習指導者講習会およびフォローアップ研修会、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を開催し、千葉県内の実習指導者育成と質の向上に貢献する。 【評価指標】 ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の 120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価 4. 主として千葉県北西部及びＪＣＨＯの看護・介護職者等に向けた生涯学習機会を提供する。	【評価指標】 ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作成状況と実施状況 2. 学生同窓会委員と連携し、持続可能な卒業生の連絡先管理および継続教育支援の方法を構築し、年度末に現状と改善策をとりまとめる。 【評価指標】 ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年 2 回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年 2 回）と参加人数（各回 50%） 3. 事務部と連携し、実習指導者講習会、フォローアップ研修、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を企画・周知・実施し、実績と改善策を取りまとめる。 【評価指標】 ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の 120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価 4. 実習指導者講習会やＪＣＨＯ本部・各病院に対して、教員の研究内容、講演できる内容などを周知する。研修会や講師依頼などの実績を年度末に取りまとめる。	Ⅲ	2. 卒業生の連絡先登録は、3/15 時点で 70%であり、登録を促す連絡を行っている状況である。メールマガジンは 3 月中に 2 回目の発行を予定している。地域交流イベントにおいて開催した 2 つの講演会の案内はメールマガジンで情報連携したが、卒業生の参加は 2 名程度であった。連絡先管理の仕組みは整備できたが、全員登録は任意性を鑑みて現実的ではないとも考えられる。次年度以降は、登録 90%程度を目指す。講演会への卒業生の参加は、コロナ禍の影響も大きいと考えられる。次年度は将来構想委員会による卒業生を対象としたイベント開催も合わせて企画を検討し、早めの情報提供を行う。				
		Ⅳ	3. 実習指導者講習会（30 日間コース）については、40 名定員のところ 48 名の受講（募集定員の 120%）となり、目標を達成することができた。ただし、7 日間コースについては 40 名定員のところ受講者は 18 名（募集定員の 45%）と、目標を大幅に下回っている。コロナの感染拡大により、訪問看護ステーションからの申し込みキャンセルなども複数あり、今後の感染収束後の受講者の動向を確認する。フォローアップ研修については対面で実施したものの、27 名が参加（56.3%）し、目標は達籍で来たと考える。なお、上記 3 研修とともに終了時の受講生アンケートでは、満足度したとの回答がおおむね 90%を超え、100%を達成する項目も多数存在しており研修内容の担保については目標を達成したものと考えられる。				
		Ⅳ	4. 千葉県看護協会からの講演依頼は下記合計 5 件である。 「看護管理ビギナー研修」「タイムマネジメント研修」 「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」2 件 「認定看護管理者教育課程サードレベル」 ・JCHO 本部からの講演依頼は下記 5 件である。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
・採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち 4 割以上） ○和歌山看護学部 【計画 16-1】㊦ 「大学での主体的な学び方の体得」及び「地域を理解する科目の充実」、「地域への愛着形成の支援」を図る。 「計画達成のための方策」 1. 主体的な学習に取り組めるために必要なカリキュラムと機会を充実する。 2. 入学初期に主体的な学び方に関する科目と地域への関心を高めるための科目を設定する。 【評価指標】 ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握	・採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち 4 割以上） 【年度計画 16-1】 1. 「大学での主体的な学び方の体得」、「地域を理解する科目の充実」に関する科目を開始する。 2. 先輩学生からの学習経験をもとに、学習計画を立て実行する。 【評価指標】 ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握	Ⅳ	1. 初年次教育において、「アカデミック・スキル」「わかやま学」を設定し、さらに複数科目で高校から大学教育への円滑な意識の転換と能動的な学習方法を身につけ、専門教育における自主的・主体的な学習への移行を目指した取り組みを行った。主体的に学べるよう、シラバスにアクティブラーニングを明示し、全科目で学びの質を保つためにシラバスチェックをシステム化した。国試対策は 1～3 年生には、模試後の振り返り、学習の促進（国試 Web の活用、各種業者の講座やサイト紹介、アプリの情報提供など）など主体的に国試に向かう取り組みを推進している。4 年生には年間計画を立て目標シートを各自が作成し、国試委員・アドバイザーと学生の情報共有ツールとして webclass を活用して学生の主体的な取り組みを支援した。 ・非常勤講師（日赤和歌山医療センター医師）担当科目である「体の仕組みと働き」、「治療学総論」、「疾病治療論」の講義内容、試験問題内容等について、成果に応じて学生の主体的な学びの促進のために学部教員が支援を行い、教育目標の共有のために日赤和歌山医療センターとの合同教育会議を 2 回実施した。国試対策は 1 年次から系統的に主体的に取り組めるシステムとして実動している。 2. 先輩学生の取り組みの成果を受けて、学生に「予習シート」、「目標設定シート」を配布し、主体的な学びが行えるように支援を実施した。国家試験への取り組みについて、医愛祭の企画として 1 期生を招き、具体的な内容や進め方の話を聞く機会を持った。低学年も含め参加学生が熱心に聞き質問をしていた。 ・学習支援した多くの科目の平均点が一定の水準に到達するなど取り組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバイザーと共有して学習を進めることができていく。国試対策では取り組みのイメージがついたと学生の反応であり、学習が進み、看護師および保健師国試とも不合格者は 1 名であった。 わかやま学の授業評価で「和歌山のすばらしさを知った」「和歌山に住んでいたが知らないことが知れた」など自由記述が多く、愛着形成に効果があった。アクションプランチームは今年度は科目内容を把握し、次年度からの活動を検討した。		・第 3 章【計画 9】卒業後の支援体制の部分を第 4 章に移動する。→担当部局において計画の一部変更を行うことで対応済み。		

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【計画 16-2】㊦ 「ボランティア活動の体系化」、 「地域の看護教育ボランティアからの学びの推進」及び「関連団体と連携した社会的要請への対応」を図る。 「計画達成のための方策」 1. 地域へのボランティア活動の推進と、地域住民の看護教育へのボランティア参加を進める。 2. 赤十字活動を中心とした活動を活発化する。 【評価指標】 ・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況、 【計画 16-3】㊦ 異文化理解や語学力、コミュニケーション能力を習得させ、豊かな教養のもとに多様な価値観に対応できる医療人の育成を図る。 「計画達成のための方策」 1. 海外研修及び海外からの研修生の受け入れ、近隣地域で生活する多国籍の方との交流の機会をつくる。 2. 海外研修への参加案内と学生の参加しやすい環境を整える。ベトナムの大学との学生交流を進める。 3. 近隣地域で生活する、または保健医療福祉施設で働く多国籍の人々との交流の場をつくる。	【年度計画 16-2】 1. ボランティア活動を体系化し試行的に運用する。 2. 赤十字活動参加学生と活動数を増加させる。 【評価指標】 ・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況 【年度計画 16-3】 1. 海外研修参加数 2 名以上を維持する。 2. ベトナムの大学との交流の機会を 1 回以上つくる。 3. 地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を 1 回以上つくる。	Ⅲ	1. ボランティア依頼は玄関ホールに掲示し、さらに学生に声をかけて募集を行った。活動届は Web 上で提出できるようにした。ボランティア活動のサポート体制として学生全員が和歌山市ボランティア保険に加入している。学生のボランティア活動に加え、地域住民の看護教育への協力を得る看護教育ボランティアの説明会にも学生ボランティアが参加した。 2. 学生赤十字奉仕団を団員 12 名で発足し、活動を開始した。 ・ボランティア報告件数は延べ人数 118 名、活動団体数 54 種類であった。選択科目「ボランティア論」74 名、「ボランティア活動」82 名の学生で履修した。奉仕団発足と教育ボランティアの集いについては大学ホームページに掲載している。本学学生が参加している学生団体の活動も SNS で発信し、学会発表がなされた。 奉仕団は和歌山県支部の活動への参加、主体的な活動として子ども食堂イベント企画を実施した。その他、日赤和歌山医療センター大規模地震時医療活動訓練に 12 名が参加、社協祭りへの参加など日赤関連、市関連団体への要請に応じている。				
		Ⅲ	1. サイネージやポスターだけでなく個別的に声掛けをし、積極的に学生の研修参加へのアプローチを行った。 2. MOU 締結後、COVID-19 の影響により交流の機会を持つことができなかった。 3. 外国人医療従事者との交流会を開催した。 ・オーストラリア研修 1 名、ハワイ研修に 1 名の参加があった。2023 年度にベトナムのナムディン大学との交流会の開催を行えるように準備を進める。外国人医療従事者 3 名と学部学生 14 名の対面での交流ができた。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【評価指標】 ・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数 【計画 16-4】㊦ I C T を駆使する能力を備え、保健医療福祉に貢献できる医療人を育成する。 「計画達成のための方策」 I C T を活用した授業の実施と充実を図り、I C T による主体的学習システムを構築し、学修成果の可視化を図る。 【評価指標】 ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度 ○大学院医療保健学研究科 【計画 17-1】㊦ 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築するとともに、人材を育	【評価指標】 ・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数 【年度計画 16-4】 1. これまでに導入したシステムの有効活用と評価を行う。 2. 新システム増設時の活用可能にするための研修を行う。 3. 学習過程・成果の可視化を試行的に開始する。 【評価指標】 ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度	Ⅲ	1.WebClass, ZOOM, Vsim, Medi-EYE, スマートグラス, Tobii3Pro, 電子黒板を導入し、学内で使用できるよう初期設定した。Medi-EYE やスマートグラスを用いた授業・演習設計についても報告し、ICT ツールや, Nursing-skill,Nursing Channel についてマニュアルを作成して公開している。HSP 受講について学部内で周知し募集を行った。 2. ICT ツールの使用状況とニーズ調査を行い、研修計画を立てた。WebClass, ZOOM の研修 2 回実施し、それぞれ 35 名が参加、90%以上が理解できたと回答した。レールダル社によるナーシングアンの勉強会を 2 回実施し、参加者延べ 10 名が参加した。Web class で修学カルテを用いた実習記録の運用についての研修は参加者 36 名、90%以上が理解できたと回答し、今後の導入はしたいと思うが 20%、検討したい 80%であった。可視化を進めるために、ICE ルーブリックの学部内の勉強会を 2 回開催した。入門編 20 名、実践編 10 名程度の参加であった。 3. 成人看護学領域が WebClass の修学カルテ機能を用いて実習記録の作成と管理を開始し、2 月に実践報告会を行なった。 ・研修参加者は理解度が向上し、ZOOM についてはほとんどの領域で有効活用している。電子黒板は授業・演習での使用実績がなく今後有効活用場を見出していく必要がある。複数科目で ICE ルーブリックが活用され始めたが 12%にとどまっている。次年度には各領域で担当者を決めて推進してく。 HSP については 4 年生 8 名が修了し、ディプロマサプリメントを発行、1 年生 85 名、2 年生 38 名、3 年生 52 名がコースを選択している。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
成するため、本研究科のカリキュラムについての見直しを行う。 「計画達成のための方策」 1. 大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。 2. 明確な教育目標の設定。 3. 教育目標に応じたカリキュラムの再構築。 4. 新しい教育制度の導入。 5. 主体的な学修を促す教育方法の導入。 「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：5 回 【計画 17-2】 教育の質保証が実証できるマネジメントシステムを構築する。 「計画達成のための方策」 研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。 1. F D 活動による教育システムなどの開発。 2. 教育プログラムの実効性の確認。 3. 教員相互協力による教育能力向上。 4. マネジメントシステムの第三者評価。 「評価指標」 ・ F D 活動による教育システムなどの開発状況	【年度計画 17-1】 1. 大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。 2. 明確な教育目標の設定。 3. 教育目標に応じたカリキュラムの再構築。 4. 新しい教育制度の導入。 5. 主体的な学修を促す教育方法の導入。 「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：5 回 【年度計画 17-2】 研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。 1. F D 活動による教育システムなどの開発。 2. 教育プログラムの実効性の確認。 3. 教員相互協力による教育能力向上。 4. マネジメントシステムの第三者評価。 「評価指標」 ・ F D 活動による教育システムなどの開発状況	Ⅲ	1-3. 各領域で 3P を設定し、それに基づいたカリキュラムを構築した。 4. 教育制度の導入までに至らないが、教育方法としては、オンライン教育を充実させていった。 5. 図書館データベースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、主体的な学修の支援システムが整備された。 また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院での検討が開始された。				
		Ⅲ	1-3. 学部と共同で、研究倫理、科研費獲得へのプロセスなどに関する講義・講演を実施し、また FD 活動を通して、教員の教育・研究指導の能力を向上させるための支援を実施し、質の保証に努めた。 4. 定期的に、大学及び大学院の教育に関する質保証のための外部評価委員会が開催され、評価を受けて改善に繋げている。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【計画 17-3】㊦ 学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成システムを整備する。 「計画達成のための方策」 グローバル化に対応した人材を育成する。 1. 学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2. 学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3. 実践的英語教育の導入。 「評価指標」 ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数 年間 3 名以上 【計画 17-4】㊦【計画 6 の再掲】 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和 5 年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。 「計画達成のための方策」 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和 5 年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。	【年度計画 17-3】 グローバル化に対応した人材を育成する。 1. 学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2. 学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3. 実践的英語教育の導入。 「評価指標」 ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数 年間 3 名以上 【年度計画 17-4】 1. 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講するための準備を進める。 ①3P の合意 ②カリキュラム策定 ③講師陣、管理委員会メンバーの確保と大学における位置づけ ④オンライン科目の授業資料の作成（令和 5 年度分）管理 ⑤実習協力病院（病院・施設・在宅）の確保	Ⅱ	グローバル化に対応した人材を育成することとして、 3. に関して立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2. 学生のグローバル・リレーションシップ育成するために、まず、3. の実践的英語教育の導入を図った。 そこで、実践的英語教育の導入状況として、「学術コミュニケーション特論」を開設し、抄録を英文で作成する能力の獲得までを目指した。授業は実施できたが、全員が抄録作成できるまでには至らなかった。 修士・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であった。 全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。 海外発表に至ったのは 1 名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋げられるよう指導を行っていく。 ・				
		Ⅲ	・①から⑬について、計画通り全て完了した。 ・入学試験結果 11 名が合格した。準備状況においては、非常勤講師 77 名、実習施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を進めている。 ・㊦演習教室の確保、㊧シミュレータの検討については、令和 5 年前期に改修工事等を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。 ・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。				

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況（令和7・8年度） ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況 【計画17-5】㊦ 独自の公開講座の開催など、学生の研究発表や研鑽の場を企画して提供していくとともに、科学研究費などへの申請数及び採択率の向上を目指す 「計画達成のための方策」 1. 公開講座の開催。 2. 競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3. 複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4. 審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認めら	⑥放送大学連携申請 ⑦演習教室の確保 ⑧シミュレータの検討（リースも含め） ⑨予算（物品費、人件費等）の概算 ⑩特定行為に関する厚生局相談と申請 ⑪文部科学省への変更申請 ⑫募集広報の作成と方法の検討 ⑬入試問題等の作成 「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備状況 【年度計画17-5】 1. 公開講座の開催。 2. 競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3. 複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4. 審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認めら	Ⅲ	1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。 2-4. 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
れる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。 「評価指標」 ・公開講座の開催年 1 回 ・科研費獲得に向けた取組状況 【計画 17-6】㊦ コンセプトに基づく計画の立案と具体化を図り、国際感覚にあふれたキャンパスを実現する。 「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。 「評価指標」 ・キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況 【計画 17-7】㊦ 学生が誇りを持てる学修環境を実現する。 「計画達成のための方策」 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の質的向上 「評価指標」 ・学修環境の整備状況 【計画 17-8】㊦ 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。	れる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。 「評価指標」 ・公開講座の開催年 1 回 ・科研費獲得に向けた取組状況 【年度計画 17-6】 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。 「評価指標」 ・キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況 【年度計画 17-7】 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の質的向上 「評価指標」 ・学修環境の整備状況	Ⅱ	・キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていない。次年度は、新設領域が開設されることから、使用教室の調整や、キャンパス内の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。				
		Ⅲ	1. オンライン上での ICT 教育を整備し充実させた。 2. 入学生全員への PC 貸与により、学生の学習環境の確保ができた。 3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、段階的に審査を実施することの検討も行っていく。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	
「計画達成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進。 3. 地域社会との連携による P R 促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況 ○大学院看護学研究科 【計画 18】㊦ 大学院修士課程における課題研究及び特別研究の成果について、修了後 1 年以内に口頭発表を行うとともに、誌上発表を行い、発表数を増加させる。 「計画達成のための方策」 1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 「評価指標」 ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講状況 ・審査日後 2 日以内の申請者への結果伝達。 ○大学院千葉看護学研究科 【計画 19-1】 研究科修士課程においては、各指導教員の役割分担と連携体制を明確にして指導教員間の綿密な協議に基づき、D P を実現する体系的な大学院教育を行うこととし、院生の質を保証する	【年度計画 17-8】 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進。 3. 地域社会との連携による P R 促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況 【年度計画 18】 1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 「評価指標」 ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講 2 名 ・審査日後 2 日以内の申請者への結果伝達。	Ⅲ	産学協同体制の構築によるブランド力向上を図るために、計画 1-4 を立案した。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学びの交流を図った。 2 と 4 では、産学協同研究成果の対外的な P R 促進では、企業との産学連携のもと、特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会などを開催した。 3. 地域社会との連携による P R 促進では、市区町村や企業との連携をすることによって産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 学内の総合研究所や産後ケア研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、P R 促進に繋がっている。			
		Ⅳ	1. 2. 研究発表会並びに大学院教授会を通して大学院生と指導教員への啓発を行い令和 3 年度修士課程修了者 30 名中 14 名（47%）が 1 年以内に学会発表を行ない、4 編の誌上発表が行われた。 ・倫理審査委員向けの受講者は 2 名増加し、受講終了者は委員 7 名中 4 名となった。 ・審査日後の結果伝達は平均 0.7 日（0～2 日）であり、迅速に結果をまとめた上で報告できた。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
組織的な教育・研究指導体制の充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 千葉看護学部の地域交流イベントにおいて、院生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 「評価指標」 ・地域交流イベントでの企画数、参加住民等からのアンケート結果、参加学生からのアンケート結果 2. 修了生の研究発表支援の実施。 修了生の研究成果の公開を支援し、実装的研究実施支援の在り方を検討する。 「評価指標」 ・修士論文の学会等での発表及び学会誌等へのアクセプト数、及び内容、自己/第三者評価結果 3. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院DPに照らした点検評価を行い、CP、AP及びDPの改定に向けた準備を行う。 「評価指標」 ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容	【年度計画 19-1】 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①専門職からなる情報交換の会を開催し、ニーズの把握をはかる。 ②成果を活動報告として紀要等の一つ以上発表する。 「評価指標」 地域交流イベントでの企画数（１つ以上）、参加住民等からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、活動報告公開数（１つ以上） 2. 修了生の研究発表支援の実施。 特別研究の進捗情報を共有し、成果公開を見通した支援の在り方に関する検討会を開催する。 「評価指標」 ・研究科学生による地域交流イベント等での研究報告の有無、修士研究内容に関する審査及び研究科教授会でのDPに照らした評価結果 3. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 ①前年度の学生授業評価、及び当該年度の終了時点での修了生の状況を資料とした点検評価会議を開催し、DPの達成状況を評価するとともに、改善点を検討する。 「評価指標」 ・検討会の開催回数（年２回）、成果物としての点検評価・改善計画報告書	Ⅲ	1. 交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った：1回 ・本発表を実践報告として次年度（令和５年度）紀要ならびに JCHO 学会に発表予定である。				
		Ⅲ	2. 毎月行う研究指導教員で行う研究科運営会議において、特別研究の進捗状況について共有し、外部審査担当を置いた特別研究の審査体制を明文化し、初の修士課程修了生５名を輩出することができた。合わせて、終了後の学会発表・論文公表への支援を継続するための研究生制度も導入し、修了生５名のうち４名がエントリーした。また、学内外の関係者に公開する発表会を開催した。研究科教員、学部教員ほか、病院の看護部長の参加も得ることができた。 ・研究科学生により、地域交流イベントで、研究科の学修成果を発表した。DPに照らした評価は研究科運営会議では行ったが、研究科教授会では未実施である。				
		Ⅲ	3. 令和３年度の学生からの授業評価アンケート結果を、８月に各科目で検討し、後期の教育活動ならびに令和５年度授業改善に活用した。令和４年度前期・後期開講科目については、今年度の履修者や修了生の状況を資料として、各科目ならびに研究科運営会議で改善点の検討を行った。特に、１年次後期必修科目の「看護機能推進演習」については、点検評価会議を開催し、１年次前期必修科目の「看護機能推進特論」や「特別研究」その他の科目との関連を含め、入学者のレディネスを考慮し、DPの達成に向けて効果的に運営する方策について意見交換し、議事録として改善計画報告書を作成した。また、和歌山看護学研究科と合同で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」という合同学習会を行い、入学者のレディネスに合わせた指導について検討した。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【計画 19-2】㊦ 修了生の研究成果の公開を支援し、実装的研究実施支援の在り方を検討する。 「計画達成のための方策」 研究科DPにのっとり、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化をめざした修了生の研究成果の公開を支援し、実装的研究実施支援の在り方を検討する。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数 【計画 19-3】㊦ 優秀な学生を確保する。 「計画達成のための方策」 基盤となる人材の獲得をめざし、入試・広報活動等を通して、保健医療組織及び個人に本学及び本研究科のビジョンを伝え、これに共鳴する受験生の獲得を図る。また、保健医療の現場に直接貢献しようとする人材を育成するため、修了後の臨床現場での活躍イメージをもって学修・研究が実施できるよう学生支援を行う。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの	とその内容 【年度計画 19-2】 特別研究の進捗情報を共有し、成果公開を見通した支援の在り方に関する検討会を開催する。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数 【年度計画 19-3】 入試説明会や個別説明会の開催とこれに先立ち主として千葉県内の施設とJCHO病院への募集ポスター配布を行い、めざすビジョンを伝える。入学後の科目選択や研究テーマ設定においては修了後のイメージを確認しながら指導を行う。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの	Ⅳ	・「特別研究」は、初開講であるため、授業評価アンケート結果はまだ届いていないが、研究指導教員で毎月開催する研究科運営会議の場を中心に、特別研究の進捗状況を共有し、学会発表や学会誌投稿を視野にいれた支援の在り方を検討した。				
		Ⅲ	・千葉県内の施設 470 箇所ならびに、JCHO 病院・看護学校 60 箇所に募集ポスター配布を 2 回行った上で、入試説明会は 2 回開催し、個別相談は 15 名に実施した。学生へのアンケートとの照合は未着手であるが、本学研究科志願理由や、入学後の科目選択、研究テーマ設定から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人材像と一致していることを確認できている。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動状況 【計画 19-4】㊦ 仕事を持つ学生への修学支援等を行う。 「計画達成のための方策」 1. 学生が仕事を継続しながら学修できるよう時間割を工夫するとともに遠隔授業とそのサポートの仕組みを整備する。 2. 科目等履修制度の整備・活用を推進する。 3. 地域交流イベントやWEB掲載等により研究科主催の公開授業を実施する。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数 【計画 19-5】㊦ 地域連携に関する共同研究を実施する。 「計画達成のための方策」 保健医療福祉における地域連携の推	一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動状況 【年度計画 19-4】 1. 令和 3 年度及び当該年度の授業実施・出欠席状況をもとに、時間割を評価し、改善点を洗い出したうえで令和 5 年度時間割の作成を行う。遠隔授業に対する学生の適応状況を授業への参加状況等から把握し、適宜、サポートを行う。 2. 入試説明会等を通して科目等履修制度を周知し、より多くの医療人に学修機会を提供する。 3. 地域交流イベントにおいて研究科主催の公開授業を行う。 「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数 【年度計画 19-5】 カリキュラムに基づいた授業を行い、	Ⅳ	1. 令和 3 年度および 4 年度の授業実施・出席状況ならびに、学修成果について、研究科運営会議にて検討した。その結果を受け、選択必修科目の時間割上表裏を最小にしたり、履修希望者の多い隔年開講科目を毎年開講としたり、複数科目について、研究デザイン検討と連動するような開講時期に変更するなどの改善を行って、令和 5 年度時間割を作成した。令和 4 年度の入学者は 11 名全員が社会人であり、令和 5 年度の入学予定者 10 名もすべて社会人となっている。				
		Ⅲ	2. 科目等履修制度ついて、入試説明会だけでなく、個別相談でも周知し、ホームページ上でも募集案内を行い、令和 4 年度 2 名、令和 5 年度 1 名の科目等履修生の利用があった。				
		Ⅲ	3. 地域交流イベントで、研究科主催の公開授業は行わなかったが、大学院学生による学修成果報告を行った。				
		Ⅳ	・令和 3 年度入学者 9 名から、初の修士課程修了生 5 名を輩出し、修士論文に対する				

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価区分	評価区分		評価区分	評価区分
進と看護機能の明確化に関する独自の講義・演習を開発・展開し、これを基盤とした修士研究の指導、及び共同研究を行う。 「評価指標」 ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数 ○大学院和歌山看護学研究科 【計画20-1】㊦ 教職員体制の充実のもと、DPを実現するための教育方法を開発し学生の学びの質を保証する。 「計画達成のための方策」 1. 社会人学生の学びを推進する教育方法を開発する。 「評価指標」 ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数 ・遠隔地でも学べる学習環境の整備状況 2. 修了生の研究成果の公表を支援する。 「評価指標」	授業ごとの学生からのリアクションや科目終了時の授業評価、地域交流イベント等での発表会での意見交換を通して、授業の質を確認する。授業が修士研究に与える影響を意見交換し、授業改善につなげる。地域連携に関する共同研究実施の可能性を探る。 「評価指標」 ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数 【年度計画20-1】 1. 大学院担当教員の充実 ①社会人学生の学びを推進する教育方法を検討する。 ②遠隔地でも学びを可能にする教育方法、教育体制を検討する。 「評価指標」 ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数 2. 修了生の研究成果の学会への発表とその後の投稿を支援する。 「評価指標」	Ⅲ	学外審査も得ることができ、発表会では病院看護管理者の参加も得た。個人の事情で1名が退学したものの、1名は働きながらの研究の継続として卒業を延期しており、2名は休学を活用し、修了に向けている。修了生5名からは、カリキュラム全体を通じて、DPを達成する力を獲得したとの高評価を得ている。教員のピアレビューを通して、入学後に科目を履修しながら、研究テーマを焦点化するカリキュラムであり、働きながら履修する状況に合わせていく上では、修士研究としての質向上に向けた1年次からの指導上の工夫と履修年限に関する学修支援を行う必要性を確認している。修士論文のテーマはいずれも地域連携を推進する研究であり、令和5年度に各看護系学会等で共同研究として、学会発表、学会誌投稿を予定している。 1. 准教授、講師を特論、演習科目に配置し、修士論文審査では新たに准教授を中心に副査として配置し、充実を図った。社会人学生であるため、学びの準備のために入学前教育を実施した。また学びを推進する教育方法を検討するため、修了生、在学生、教員を対象に「教学調査」を実施した。学習環境については8割が満足という結果であった。自由記載から、ICTスキルの向上とそれらが学修成果に繋がるように、Desknet’sやWebClassといった学修支援アプリケーションを説明する機会を設けた。対面、オンライン、ハイブリットに対応できる受講環境の整備し、遠隔地からも学べる環境が整った、大学院生室の環境整備を行った。 ・大学院担当教員数は、開設当初の教授7名、准教授2名、講師3名から、今年度は教授8名、准教授9名、講師5名となった。新規教員の多い体制であったために教育方法検討については、次年度の課題として引き続き検討したい。 2. 修了生に学会発表と学会誌への投稿について継続して指導することを伝え、指導教授は支援した。学生の連絡先の登録ができたため、支援体制の構築に向けては次年度に検討する。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	令和 4 年度計画達成状況		評価 区分	内部質保証推進会議
・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況 【計画 20-2】㊦ 学生の社会生活と学習を両立できる環境整備を図る。 「計画達成のための方策」 各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行うとともに、学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行い、科目履修での学びを勧める。 「評価指標」 ・各種奨学金、補助金の獲得状況 ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（e-ラーニングなど） ・科目履修生制度の利用状況 【計画 20-3】㊦ 修了生の学修継続支援を行う。 「計画達成のための方策」 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。 「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の確保数 ・研究成果の発表と投稿数 ○助産学専攻科 【計画 21-1】㊦ 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築する。 「計画達成のための方策」	・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況 【年度計画 20-2】 1. 各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行う。 2. 学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行う（e-ラーニングなど） 3. 科目履修での学びを勧める。 「評価指標」 ・各種奨学金・補助金の獲得状況 ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（e-ラーニングなど） ・科目履修生制度の利用状況 【年度計画 20-3】 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。 「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の開催数 ・研究成果の発表と投稿数 【年度計画 21-1】	Ⅳ Ⅱ	・令和 3 年度修了生 10 名中、学会発表は今年の発表予定を含め 6 名、投稿は紀要に 1 名、学会誌に 2 名行い、1 名は学会誌に原著で受理された。 1. 各種奨学金、補助金等について、入試説明会、大学院教務ガイダンスで行っている。学生募集に大きく関わるために具体的な説明を実施した。特に教育訓練給付制度については、入学 1 か月前までに申請が必要なため間に合うように説明を行った。 2. 学生の学べる時間に応じた学習方法の検討（e-ラーニングなど）は、検討を継続する。 3. 科目履修は入学につながる可能性があるために、入学説明と同時に科目履修についての説明も行い、広報活動を行っている。 ・教育訓練給付金制度は令和 5 年度から開始のために説明を受けた入学予定の 3 名が手続きを行っている。対面、オンライン、オンデマンド、ハイブリッドの環境が整ったため、科目レベルでそれらを有効に活用するための検討を継続する。学習方法の開発は次年度継続して検討する。 今年度の科目履修制度の利用はなかったが、令和 5 年度は 3 名の予定である。 ・修了生の研究成果発表の機会の確保については、修士論文指導教員が主として個別に行っている現状である。 ・修了生の動向を把握し、学習支援機会について検討を始めたところである。教務委員会が推進するシステムを構築する予定である。 研究成果としては、修了生 1 名が日本看護協会認定看護管理者に合格した。研究成果の発表と投稿数は【年度計画 20-1】の評価で示した。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
1. 教育理念に則った教育プログラムの確立。 1) 明確な教育目標の設定。 2) 教育目標に応じたカリキュラムの再構築 2. 新しい教育制度の導入 1) 主体的な学修を促す教育方法の導入 2) ルーブリック評価法などを活用し、学生へもわかりやすい評価の提示 3) C B T ・ O S C E の実施 4) 裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲得 「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 【計画 21-2】㊦ 産後ケアセンターでの実習を通し、地域の母子を支援する。 「計画達成のための方策」 1. アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. N C P R、受胎調節実地指導員講習会の開催。 4. 1 人あたり 10 例程度確実に分娩介助実習を行い、臨床経験の確保。 5. 新カリキュラムの検討。 6. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。	1. 教育理念に則った教育プログラムの確立。 1) 明確な教育目標の設定。 2) 教育目標に応じたカリキュラムの再構築 2. 新しい教育制度の導入 1) 主体的な学修を促す教育方法の導入 2) ルーブリック評価法などを活用し、学生へもわかりやすい評価の提示 3) C B T ・ O S C E の実施 4) 裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲得 「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況 【年度計画 21-2】 COVID-19 禍でオンライン育児クラスの開始。 1. アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. N C P R、受胎調節実地指導員講習会の開催。 4. 1 人あたり 10 例程度確実に分娩介助実習を行い、臨床経験の確保。 5. 新カリキュラムの検討。	Ⅲ	1. 母子保健法の改正により、助産師は生後 1 年までの母子の支援が求められるため、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達とケア」を新規科目として立ち上げた。本科目では、新生児科医師の講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上も目指している。 2. CBT や OSCE が今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、次年度以降実施していくための準備を行った。ただし、OSCE の実施にあたっては、学生 1 名あたりに多大な時間を要するため、実施方法に関して検討が必要である。 裂傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以降演習内に取り入れていく。				
		Ⅲ	1、6、7. 産後ケア研究センターが、地域で生活している母子の支援に触れることができ、助産学専攻科の実習施設として成立してきている。 また、オンライン育児クラスの開催によって、コロナ禍における地域の母子の実際や支援ニーズを学ぶ機会となった。 2. 地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話を聞き、異なる文化圏における学習の機会を設けた。 3. 各講習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。 4. コロナ禍により、実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習での補充も含め、10 例程度の分娩介助を確保できた。 5. 母子保健法の改正により、産後ケアの対象は産後 1 年までの母子となったことから、「助産診断・技術学」や新設した「乳幼児の発育・発達とケア」において、1 年までの母子を診る力の向上に努めている。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
7. 生活の場における地域での母子支援の在り方について考えていける。 「評価指標」 ・実習の受入れ状況 【計画 21-3】㊦ 大学と臨床施設との連携を図り、大学大学院までのキャリアを見据えた教育を実施する。 「計画達成のための方策」 1. N C P R講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 4. チーム医療推進助産師研修会への参加。 5. 実習協議会の開催。 「評価指標」 ・実習施設への就職率 【計画 21-4】㊦ 研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立する。 「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。	6. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 7. 生活の場における地域での母子支援の在り方について考えていける。 「評価指標」 ・実習の受入れ状況 【年度計画 21-3】 1. N C P R講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 4. チーム医療推進助産師研修会への参加。 5. 実習協議会の開催。 「評価指標」 ・実習施設への就職率 【年度計画 21-4】 研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。	Ⅲ	1、2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やN C P R講習会など、実習施設にも公開し、臨床スタッフの参加も促している。 3. 本学で開催した東京母性衛生学会学術セミナーに、実習施設の助産師の参加が多数あった。 4. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向けての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は 40%程度に増加した。				
		Ⅱ	・研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画 1-4 を立案した。 1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も充実させた。 2 に関しては、進行はできなかった。 4 の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画 3 の国際会議発表				

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価区分	評価区分		評価区分	評価区分
「評価指標」 ・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況 【計画21-5】㊦ 研究レベル向上の為の教育プログラムの確立を図るとともに、学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成のシステムを整備する。 「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・年1回以上の学会・研修会への参加 ・勉強会・抄読会の実施状況 ・実践的英語教育の導入状況 ・英語抄録作成クラス開催状況 ・学生の海外学習状況 ・論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数の 【計画21-6】㊦ 助産学専攻科のアメニティ空間の改善を図る。 「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設のアメニティ空間の改善。 2.グローバル化に対応する施設環境	「評価指標」 ・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況 【年度計画21-5】 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。 1.体系的なカリキュラムの構築。 2.学部・大学院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・年1回以上の学会・研修会への参加 ・勉強会・抄読会の実施状況 ・実践的英語教育の導入状況 ・英語抄録作成クラス開催状況 ・学生の海外学習状況 ・論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数の状況 【年度計画21-6】 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設のアメニティ空間の改善。 2.グローバル化に対応する施設環境	Ⅱ	の推進に導けるように取り組んでいる。 取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研究のスケジュールリングを指導している状況である。 研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。 1.体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も充実させた。 2に関しては、進行はできなかった。 4の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画3の国際会議発表の推進に導けるように取り組んでいる。 取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研究のスケジュールリングを指導している状況である。			
		Ⅱ	1、2.講義教室が大学院と共有であるため、常時使用できるわけではなく、使用教室が日によって変わってしまい、学生の学習環境の確保が求められる。 3.学生の分娩介助演習のために、分娩介助モデルを新規購入したが、学生数に対し不十分であるので、充足させていく。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
整備。 3. 良質な学修環境整備。 「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況 【計画 21-7】㊦ 大学ブランドを学生が認めて受験したいと思える大学及び助産学専攻科をつくる。 「計画達成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進。 3. 地域社会との連携による P R 促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 「評価指標」 ・一般入試志願倍率 5 倍以上 ○和歌山助産学専攻科 【計画 22-1】㊦ 「災害と助産」の必修科目を踏まえ、平時から備える能力を養うことで一歩先を見据えた教育を行う。 「計画達成のための方策」 全国でリスクが高まっている大地震を中心とした災害における周産期医療について専門的に学ぶ「災害と助産」を必修科目に設定したところであり、周産期の母子や多様化するセクシュアリティーにも着目し、平時から備える能力を養う。	整備。 3. 良質な学修環境整備。 「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況 【年度計画 21-7】 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進 3. 地域社会との連携による P R 促進 4. 特別教授制度による先端研究導入 5. 国際交流グローバル化推進 「評価指標」 ・一般入試志願倍率 5 倍以上 【年度計画 22-1】 「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施。	Ⅲ	1-3. 産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などの PR 促進効果により、オンラインでの助産学専攻科のオープンキャンパスでは、参加者 100 名程度と大変盛況であり、本学に進学したいと思ったなどの感想が多かった。 一般入試の受験者は 70 名程度であり、志願者倍率は、5 倍以上となった。 5. 【年度計画 21-2】を参照。授業の一環で、海外で活躍する医療職の話を聞く機会を設け、将来のキャリア選択の一助としている。				
		Ⅳ	・地震をはじめとした災害時の助産や母子保健について、備えから発生直後、中長期にわたる避難所生活に至るまで、専門家を招聘してオムニバス方式で多面的に授業を行った。 ・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」「総合的に満足できた」の問いに全員が「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実的な授業を展開できた。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施状況 【計画 22-2】㊦ 必修科目の「カウンセリング論」を踏まえ、喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。 「計画達成のための方策」 必修科目に「カウンセリング論」を編成し、非常勤講師に公認心理師兼臨床心理士兼大学病院でのカウンセラーの授業を通して、ペリネイタルロスなど喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。 「評価指標」 ・「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する授業アンケート実施 【計画 22-3】㊦ 一歩先を見据えながら助産を創造し、地域周産期医療向上に寄与できる助産師の育成を図る。 「計画達成のための方策」 和歌山看護学部から進学を希望する者及び地域周産期医療への貢献を希望する受験生を、西日本を中心に広くリクルートし、優秀な人材を確保する。また、修了後は助産師国家試験に合格し、希望する就職ができるよう支援する。	「評価指標」 ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施状況 【年度計画 22-2】 「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する、授業アンケートを実施する。 「評価指標」 ・同左 【年度計画 22-3】 和歌山県立高等看護学院助産学科学生募集の最終年度であり、県内 3 校の助産師養成となるため、実習施設確保の問題から定員充足率を 80%とする。助産師国家試験合格率 100%、就職率 100%とする。 「評価指標」	IV	・臨床カウンセラーである講師の演習を行った。 ・アンケートでは、「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」「発展的な学びにつながる」「総合的に満足できた」の問いについて全員が「思う」と回答した。このような実践的な演習は初めてで、実習前に有意義だったという声が多かった。				
		IV	・実習施設の確保の問題から定員には満たないが、8 名の合格者全員が入学した。 ・実習施設の現状から 80%の定員充足率であった。就職率は 100%で、助産師国家試験は全員が受験し 100%の合格率であった。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・ 定員充足率の状況 ・ 助産師国家試験合格率、就職率の状況 【計画 22-4】㊦ 国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。 「計画達成のための方策」 グローバル化の問題を解決するための「国際母子保健活動論」及びリアルタイムで世界の母子保健情勢を英語で学ぶ「英語文献講読（必修科目）」の履修、加えて大規模な専門分野の学会参加も含めて、国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。 「評価指標」 ・ ガイダンスで「国際母子保健活動論」の履修または聴講状況 ・ 学会への参加状況 〇感染制御学教育研究センター 【計画 23-1】㊦ 「感染制御実践看護学講座」を継続するとともに、COVID-19 パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成について、本学がどのように貢献できるのか、引き続き検討していく 「計画達成のための方策」 1. 「感染制御実践看護学講座」の継続。 2. COVID-19 パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成についての検討。	・ 定員充足率の状況 ・ 助産師国家試験合格率、就職率の状況 【年度計画 22-4】 ガイダンスで「国際母子保健活動論」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修または聴講する。学会に 1 回参加する。 「評価指標」 ・ 同左 【年度計画 23-1】 1. 合格者数を 20 名～25 名程度を維持する。 2. 「感染制御実践看護師」資格付与のために従来からの考査に加え「修	IV	・ ガイダンスで当該科目の意義を説明した ・ 全員が選択した。授業アンケートでは、「専門知識が得られた」や「新しい考え方や発想が得られた」「この授業は総合的に満足できた」に全員が「思う」と回答するなど関心は高かった。令和 4 年 9 月の日本母性衛生学会学術集会に全員が参加し、履修状況と授業評価も踏まえ、国際母子保健について視野を広め、将来のリーダーとなる資質を養成できた。				
		III	1. 23 名の合格者のうち、個人的理由で 1 名離脱し 22 名が修了し「感染制御実践看護師」を付与した。 2. 予定通り「修了試験」を実施した。客観評価は、研修生自身のウイークポイントを明確にできること、さらに「資格認定」のレベルの維持にも重要である。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・ 合格者数 20 名～25 名を維持 【計画 23-2】㊦ J H A I 誌発刊を継続するとともに、高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及のためのセンターで可能な「研修」の在り方など情報収集を行う。 「計画達成のための方策」 1. J H A I 誌発刊の継続。 2. 高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及は喫緊の課題となっていることから、センターで可能な「研修」の在り方などの情報収集。 「評価指標」 ・ J H A I 誌発刊年 2 回の発行維持 ・ 高齢者施設従事者への研修体制の構築状況 〇産後ケア研究センター 【計画 24-1】㊦ 産後ケア研究センターでの実習を通し、地域の母子を支援する。	了試験」を新設し、研修生と講座全体の評価を実施する。 3. 修了生の動向調査を行う。以後、定期的に実施し、結果を公開していく方向で検討する。 4. 今後の感染制御に関わる人材育成について「特定看護師」育成プログラムを含め情報収集していく。 「評価指標」 ・ 合格者数 20 名～25 名を維持 【年度計画 23-2】 1. 年 2 回の発刊を維持していく。 2. センターで可能な高齢者施設従事者への研修体制を構築する。又は高齢者施設の感染制御の底上げのためにセンターで貢献できることを検討する。 「評価指標」 ・ J H A I 誌発刊年 2 回の発行維持 ・ 高齢者施設従事者への研修体制の構築状況	Ⅲ	3. 現在検討中。 4. 平成 5 年の研修生の応募数は定員の 2 倍に及び、関心の高さをうかがえた。本研修会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、わが国の医療施設の感染対策を担う人材育成機関として大きく貢献しており、今後も本体制を維持しつつ継続していく。 1. 予定通り年 2 刊発刊。 2. 「高齢者施設従事者」対象の感染制御に関する研修については、現状のセンターの運営体制では企画自体難しく、当面高齢者施設従事者をサポートする「感染制御実践看護師」の育成に注力していく。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「計画達成のための方策」 1. アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 4. 生活の場における地域での母子支援の在り方について検討する。	【年度計画 24-1】 COVID-19 禍でオンライン育児クラス開始。 ・助産学実習Ⅳでの集団教育の実施 ・地域母子保健学の実習の遂行 ・助産学実習Ⅴでの助産管理学実習の遂行	Ⅳ	・オンラインでの集団教育を計 3 回実施し、延べ 20 名の母親が参加した。 ・助産師学生 21 名を、地域母子保健学の演習や助産学実習Ⅴの実習内で、地区踏査や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。電話相談や訪問型ケアの実際を学ぶことができたと学生より評価を受けた。 ・母性看護学実習で 12 名、統合実習で 10 名、実習の受け入れをした。				
「評価指標」 ・実習の受け入れ状況	「評価指標」 ・実習の受け入れ状況						
【計画 24-2】㊦ 大学と品川区との連携を図り、大学院までのキャリアを見据えた教育を行う。 「計画達成のための方策」 1. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3. チーム医療推進助産師研修会への参加。	【年度計画 24-2】 1. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3. チーム医療推進助産師研修会への参加。	Ⅲ	1. 産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3 日間に渡り実施し、年度途中にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者数は約 20 名であった。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーは約 50 名が参加した。 3. チーム医療推進助産師研修会は、今年度はコロナ禍により中止した。				
「評価指標」 ・研修会の参加者数、参加回数	「評価指標」 ・研修会の参加者数、参加回数						
【計画 24-3】㊦ 産後ケア研究センターのアメニティ空間の改善を図る。 「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1. 施設の長寿命化及び更新(アメニテ	【年度計画 24-3】 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1. 施設の長寿命化及び更新(アメニテ	Ⅱ	1-3. 事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。また看護学科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、学生が学修しやすい環境整備を図っているが、産後ケア研究センター内のみでは狭小のため、他教室を利用して実施し				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議																				
		評価 区分		評価 区分		評価 区分																				
ィ空間の改善)。 2. グローバル化に対応する施設環境整備。 3. 良質な学修環境整備。 「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況 【計画 24-4】㊦ 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。 「計画達成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進。 3. 地域社会との連携による P R 促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況 ○学長戦略本部等 【計画 25-1】㊦(総合研究所) 健康情報基盤研究ユニット(T I S)、ヘルスシステムデザイン研究ユニット(ビーンズ)、教育 D X 研究ユニット(文科省補助)の三本柱となる研究ユニットを立ち上げる。 「計画達成のための方策」 すべての学部・学科の教員が関与する形で、3 つの各研究ユニットによる研	ィ空間の改善)。 2. グローバル化に対応する施設環境整備。 3. 良質な学修環境整備。 「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況 【年度計画 24-4】 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化による P R 効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的な P R 促進。 3. 地域社会との連携による P R 促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況 【年度計画 25-1】 3 つの研究ユニットで、具体的な研究計画を立案し、参加する教職員を	Ⅳ	ている。 1-3. 産後ケア研究センターでの取り組み内容について、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などの PR 促進効果により、利用者数が維持されている。地域社会との連携により、日帰り型産後ケアについて、新たな形態として保健センター内で実施できるよう、場所や物品、人員の検討準備を行った。 5. 外国籍の利用者は前年度 3 名であったが、今年度は 10 名と増加しているが、外国語の対応が可能なスタッフが従事していることにより、さらに保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区との協力体制も調整できてきている。 ・産後ケアの利用者数は以下のように推移している。 <table><tr><td></td><td>令和元年度</td><td>令和 2 年度</td><td>令和 3 年度</td><td>令和 4 年度</td></tr><tr><td>日 帰</td><td>325</td><td>162</td><td>228</td><td>223</td></tr><tr><td>訪 問</td><td>344</td><td>127</td><td>194</td><td>202</td></tr><tr><td>電話相談</td><td>639</td><td>925</td><td>367</td><td>348</td></tr></table> ※令和 4 年度は、1 月までの数値となっている。 ・左記の 3 つの研究ユニットを立ち上げ、学内外に向けての各ユニットの活動を模索した。令和 4 年度は、健康情報基盤研究ユニット、教育 D X 研究ユニット、ヘルスシ		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	日 帰	325	162	228	223	訪 問	344	127	194	202	電話相談	639	925	367	348			
	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度																						
日 帰	325	162	228	223																						
訪 問	344	127	194	202																						
電話相談	639	925	367	348																						

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 「評価指標」 ・3つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況 【計画 25-2】㊟(総合研究所) ヘルスシステムデザイン研究ユニットの主管により、学生を巻き込んだ研究共創行事として「ジャックと豆の木ワークショップ」を推進する。 「計画達成のための方策」 学生有志と教職員の研究共創行事である「ジャックと豆の木ワークショップ」で生まれたアイディアに基づく研究から研究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 「評価指標」 ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況 【計画 25-3】㊟(総合研究所) 教育DX研究ユニットの主管により、高校教員、大学教員がともに教育DXを学ぶ場としてオンラインシンポジウムを開催する。 「計画達成のための方策」 DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価が、DX以前よりも20%以上向上する。 「評価指標」 ・DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価の状況	募集する。 「評価指標」 ・3つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況 【年度計画 25-2】 「ジャックと豆の木ワークショップ」を開催し、そこで生まれたアイディアの還元方法を検討する。 「評価指標」 ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況 【年度計画 25-3】 ICEモデル適用科目を増やすための説明会を実施する。 「評価指標」 ・DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価の状況	IV	STEMデザイン研究ユニットそれぞれのユニットで具体的な活動を実施した。 ・ビーンズとの連携のもと「医療と生活を繋ぐヘルスデータ基盤のこれから」と題したヘルスケアDXシンポジウムを、台湾から医療界のゲスト講師を招き、令和5年2月17日に実施した。対面・オンラインをあわせ52名の参加申込があった。 ・学内学部生や若手教員を対象に、12月に懸賞論文「アジアとともに歩む一歩先の医療保健」を実施。応募論文の中から、学生の部で2組3名が最優秀賞、若手教員の部で、1名が最優秀賞、2名が優秀賞を受賞した。最優秀賞、優秀賞の受賞者は、受賞賞品として3月20日から23日の日程で台湾の医療施設を巡る研修に参加した。				
		IV	・教育DXユニットのイベントとして、令和4年12月10日に高校教員や大学教員を主たる対象として、「持続可能な社会を支える大学教育のこれから」と題したシンポジウムを、対面・オンラインのハイブリッド形式で実施し、計25名参加申込みがあった。「アクティブ・ラーニングと指導者コンピテンシー」の特別講演、「Society5.0における大学の役割」のパネルディスカッションを行った。 ・令和5年3月13日に、教育支援コンテンツの開発支援を念頭に、教員経験が3年未満の教員や大学院生を対象とした「授業設計ワークショップ」を対面・オンライ				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
【計画 25-4】㊦(総合研究所) 健康情報基盤研究ユニットの主管により、萌芽的研究に対する学内助成活動を推進する。 「計画達成のための方策」 学内助成活動による研究成果や社会活動から、研究成果（論文・書籍・知的財産等）が生まれ、その成果を授業に還元する。 「評価指標」 ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況	【年度計画 25-4】 助成対象活動のサポート及びフォローアップの方法を検討し、活動経緯について関係学会内でのシンポジウム等で共有する。 「評価指標」 ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況	Ⅱ	ンのハイブリッド型で実施、25 名が参加した。 ・TIS 株式会社との連携での資金導入により、学内での研究活動の助成を実施。前年度 2 月～3 月に実施した学内募集に 7 件の応募があり、4 月に厳正な審査を行い、最優秀賞 1 名（40 万円）、優秀賞 2 名（5 万円）を選定した。				
		Ⅲ	1. 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定点調査であるところ、令和 4 年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews 学生版」の刊行ができなかったため、このデータに対する意見収集を行えていない。令和 5 年 5 月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。 「評価指標」 ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）59.2% ・授業評価アンケートの回答率（継続）62.7%				

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価区分		評価区分		評価区分	
2. 高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。 「評価指標」 ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規） 年2回 ・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備<キャンパス・プラン整備>（継続） ・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続） ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2回 3. 活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。 「評価指標」 ・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年2回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年2回 ・研究業績に関する分析の検討（新規） 【計画26】 【計画2の再掲】 (学長戦略本部・企画部) 教育の質保証の観点から、毎年度定期	2. 高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。 「評価指標」 ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規） 年2回 ・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備<キャンパス・プラン整備>（継続） ・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続） ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2回 3. 活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。 「評価指標」 ・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年2回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年2回 ・研究業績に関する分析の検討（新規）	Ⅲ Ⅱ	2. ディプロマ・ポリシーの運用状況等について、IR推進室運営会議等の関係会議で報告した。 ・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。令和5年度から段階的に運用予定である。 ・九州大学で開催されたIR担当者会議に室員2名が出席し、情報交換を行った。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換会を実施した。 「評価指標」 ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規） 年1回 ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年1回 3. 令和4年度は、COVID-19対策本部が学校する「遠隔授業だより」に掲載するためのLMSの利用状況データの提供等を行ったが、その反面、IR推進室としての媒体発行には至らなかった。令和5年度は独自媒体での広報活動を進めていきたい。 ・令和4年度は医学中央雑誌ベースで185件の研究業績があったが、令和3年度は209件、令和2年度は202件であり、1割程度の減少がみられている。また、原著に限れば令和4年度は19件と、令和3年度の41件、令和2年度の38件と比べても大幅な減少といえる。この状況が続くことは望ましくないため、まずは現状を共有した上で投稿を促すとともに、引き続きモニタリングにつとめていきたいと考えている。 「評価指標」 ・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年0回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年0回				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
的に自己点検・評価及び検証を行い、その結果について外部評価を実施し公表する。また、学長直轄の学長戦略本部を中心に、より適切なものとなるよう外部評価結果等を踏まえ、教育課程及び教育方法等の改善・充実を図る。 「計画達成のための方策」 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのPDCAサイクルを構築する。 「評価指標」 ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	【年度計画 26】 学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」として、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」 毎のチェックリストを作成し、試行的に運用する。 「評価指標」 ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況	Ⅳ	・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進 DX プロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、政府の「教学マネジメント指針」等を踏まえ、「学修者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が適切に機能しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点検・評価を実施し、適切に教育改善が図られるよう、「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」を検討・準備した結果、令和5年1月11日開催の内部質保証推進会議にて正式に策定した。 ・同年2月27日には、各部局代表者等に対する説明会を開催し、趣旨や内容等の説明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネット内に収納し、いつでも資料や動画、Q&Aを確認できるよう情報共有に努めるとともに、本年度内の試行的な運用についても依頼したところであり、全て年度計画通り実施した。 https://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/pdf/index/r3/management.pdf https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/1/assessment.pdf				